

令和 6 年 度

酒田市 水道事業会計  
下水道事業会計 決算審査意見書

酒 田 市 監 査 委 員

監 発 第 4 2 号

令和 7 年 8 月 8 日

酒田市長 矢 口 明 子 様

酒田市監査委員 大 石 薫

(公 印 省 略)

酒田市監査委員 高 橋 千代夫

(公 印 省 略)

令和 6 年度酒田市水道事業会計及び酒田市下水道事業会計決算審査意見の提出について

地方公営企業法第 30 条第 2 項の規定により審査に付された、令和 6 年度酒田市水道事業会計及び酒田市下水道事業会計決算について審査をしたので、別紙のとおり意見を提出します。

## 目 次

|         |                  |    |
|---------|------------------|----|
| 第 1     | 審査の対象            | 5  |
| 第 2     | 審査の期間            | 5  |
| 第 3     | 審査の方法            | 5  |
| 第 4     | 審査の結果            | 5  |
| 水道事業会計  |                  |    |
| 1       | 決算報告書（税込み）       | 7  |
|         | （1）収益的収入及び支出     | 7  |
|         | （2）資本的収入及び支出     | 8  |
| 2       | 業務の状況            | 10 |
|         | （1）給水状況          | 10 |
|         | （2）施設の利用状況       | 11 |
| 3       | 損益計算書            | 12 |
|         | （1）収益            | 12 |
|         | （2）費用            | 16 |
|         | （3）損益            | 19 |
| 4       | 剰余金計算書及び剰余金処分計算書 | 21 |
| 5       | 貸借対照表            | 22 |
| 6       | 経営分析             | 24 |
| 7       | 審査意見             | 33 |
| 下水道事業会計 |                  |    |
| 1       | 決算報告書（税込み）       | 35 |
|         | （1）収益的収入及び支出     | 35 |
|         | （2）資本的収入及び支出     | 36 |
| 2       | 業務の状況            | 38 |
|         | （1）汚水処理の状況       | 38 |
|         | （2）施設の利用状況       | 41 |
| 3       | 損益計算書            | 42 |
|         | （1）収益            | 42 |
|         | （2）費用            | 44 |
|         | （3）損益            | 47 |
| 4       | 剰余金計算書及び剰余金処分計算書 | 49 |
| 5       | 貸借対照表            | 50 |
| 6       | 経営分析             | 52 |
| 7       | 審査意見             | 59 |

凡

例

- 1 文中で用いる金額は、原則として千円単位で表示し、単位未満は四捨五入した。したがって、合計金額と内訳の計が一致しない場合がある。
- 2 比率（％）は、小数点以下第1位まで表示のものは、小数点以下第2位を、小数点以下第2位まで表示のものは、小数点以下第3位を四捨五入した。
- 3 構成比率（％）は、小数点以下第2位を四捨五入した。したがって、合計と内訳の計が一致しない場合がある。
- 4 ポイントとは、百分率（％）間の単純差引数値である。
- 5 各表中の符号の用法は、次のとおりである。
  - 「0」、「0.0」・・・・・・0 又は単位未満のもの
  - 「△」・・・・・・減少又は負数
  - 「－」・・・・・・該当項目のないもの

## 令和6年度酒田市水道事業会計及び酒田市下水道事業会計決算審査意見

### 第1 審査の対象

|       |                 |       |                  |
|-------|-----------------|-------|------------------|
| 令和6年度 | 酒田市水道事業決算報告書    | 令和6年度 | 酒田市下水道事業決算報告書    |
| 令和6年度 | 酒田市水道事業損益計算書    | 令和6年度 | 酒田市下水道事業損益計算書    |
| 令和6年度 | 酒田市水道事業剰余金計算書   | 令和6年度 | 酒田市下水道事業剰余金計算書   |
| 令和6年度 | 酒田市水道事業剰余金処分計算書 | 令和6年度 | 酒田市下水道事業剰余金処分計算書 |
| 令和6年度 | 酒田市水道事業貸借対照表    | 令和6年度 | 酒田市下水道事業貸借対照表    |
| 令和6年度 | 酒田市水道事業決算附属書類   | 令和6年度 | 酒田市下水道事業決算附属書類   |

### 第2 審査の期間

令和7年6月13日から令和7年8月8日まで

### 第3 審査の方法

決算の審査は、令和7年6月13日付けをもって酒田市長から地方公営企業法第30条第2項の規定により審査に付された決算書及び決算附属書類が、地方公営企業関係法令及び各事業の会計規程に準拠して作成され、かつ、経営成績及び財政状態を正確に表示しているか否かについて、関係帳票の提出を求めるとともに、関係職員の説明を聴取して行った。

### 第4 審査の結果

審査に付された決算報告書及び財務諸表は、地方公営企業関係法令及び各事業の会計規程に準拠して作成されている。計数は正確であると認められた。

各事業運営の状況については、次の分析のとおりである。

# 酒 田 市 水 道 事 業 会 計

# 1 決算報告書（税込み）

## （１）収益的収入及び支出

### ア 収益的収入

当年度の収益的収入の決算額は、次表のとおりである。

（単位 円・％）

| 区分         | 予算額           | 決算額           | 予算額に比べ<br>決算額の増減 | 予算額に対する<br>決算比率 |
|------------|---------------|---------------|------------------|-----------------|
| 1 款 水道事業収益 | 2,824,503,000 | 2,816,715,681 | △7,787,319       | 99.7            |
| 1 項 営業収益   | 2,549,989,000 | 2,538,246,219 | △11,742,781      | 99.5            |
| 2 項 営業外収益  | 203,604,000   | 210,365,660   | 6,761,660        | 103.3           |
| 3 項 特別利益   | 70,910,000    | 68,103,802    | △2,806,198       | 96.0            |

事業収益は、予算額 28 億 2,450 万 3 千円に対し、決算額 28 億 1,671 万 6 千円で、予算額に対する決算比率は 99.7％となっている。前年度の決算額 28 億 2,792 万 2 千円と比べ 1,120 万 6 千円（0.4％）減少している。

決算額の内訳を前年度と比べると、営業収益が 4,183 万 1 千円（1.6％）減少し、営業外収益が 1,258 万 2 千円（6.4％）、特別利益が 1,804 万 3 千円（36.0％）増加している。

### イ 収益的支出

当年度の収益的支出の決算額は、次表のとおりである。

（単位 円・％）

| 区分         | 予算額           | 決算額           | 不用額         | 予算額に対する<br>決算比率 |
|------------|---------------|---------------|-------------|-----------------|
| 1 款 水道事業費用 | 2,815,555,000 | 2,727,480,010 | 88,074,990  | 96.9            |
| 1 項 営業費用   | 2,584,725,000 | 2,470,389,729 | 114,335,271 | 95.6            |
| 2 項 営業外費用  | 80,861,000    | 48,868,996    | 31,992,004  | 60.4            |
| 3 項 特別損失   | 146,969,000   | 208,221,285   | △61,252,285 | 141.7           |
| 4 項 予備費    | 3,000,000     | 0             | 3,000,000   | 0.0             |

事業費用は、予算額 28 億 1,555 万 5 千円に対し、決算額 27 億 2,748 万円で、予算額に対する決算比率は 96.9％となっている。前年度の決算額 25 億 3,083 万 8 千円と比べ 1 億 9,664 万 2 千円（7.8％）増加している。

決算額の内訳を前年度と比べると、営業費用が 5,447 万 3 千円（2.3％）、特別損失

が 2 億 483 万 5 千円（6,048.5%）増加し、営業外費用が 6,266 万 5 千円（56.2%）減少している。

収益的収入額から収益的支出額を差し引いた額は、8,923 万 6 千円である。

## （２）資本的収入及び支出

### ア 資本的収入

当年度の資本的収入の決算額は、次表のとおりである。

（単位 円・％）

| 区分        | 予算額         | 決算額        | 予算額に比べ<br>決算額の増減 | 予算額に対する<br>決算比率 |
|-----------|-------------|------------|------------------|-----------------|
| 1 款 資本的収入 | 274,928,000 | 82,476,845 | △192,451,155     | 30.0            |
| 1 項 企業債   | 244,100,000 | 69,600,000 | △174,500,000     | 28.5            |
| 2 項 補助金   | 15,050,000  | 802,000    | △14,248,000      | 5.3             |
| 3 項 出資金   | 2,232,000   | 2,232,845  | 845              | 100.0           |
| 4 項 負担金   | 13,546,000  | 9,842,000  | △3,704,000       | 72.7            |

資本的収入は、予算額 2 億 7,492 万 8 千円に対し、決算額 8,247 万 7 千円で、予算額に対する決算比率は 30.0%となっている。前年度の決算額 1 億 3,759 万 8 千円と比べ 5,512 万 1 千円（40.1%）減少している。これは主に、工事負担金 9,458 万円の減少により負担金が 9,866 万 3 千円（90.9%）減少したためである。

補助金は、一般会計からの児童手当補助金である。出資金は、統合前の松山簡易水道事業に係る企業債償還金に対する他会計出資金である。負担金は、消火栓設置工事等に係る他会計負担金、配水管移設等工事に係る工事負担金である。

### イ 資本的支出

当年度の資本的支出の決算額は、次表のとおりである。

（単位 円・％）

| 区分         | 予算額           | 決算額           | 地方公営企業法<br>第 26 条の規定<br>による繰越額 | 不用額        | 予算額に<br>対する<br>決算比率 |
|------------|---------------|---------------|--------------------------------|------------|---------------------|
| 1 款 資本的支出  | 1,665,460,000 | 1,384,014,578 | 263,831,700                    | 17,613,722 | 83.1                |
| 1 項 建設改良費  | 1,258,978,000 | 977,542,167   | 263,831,700                    | 17,604,133 | 77.6                |
| 2 項 企業債償還金 | 406,482,000   | 406,472,411   | 0                              | 9,589      | 100.0               |

資本的支出は、予算額 16 億 6,546 万円に対し、決算額 13 億 8,401 万 5 千円で、予算額に対する決算比率は 83.1%となっている。前年度の決算額 11 億 9,661 万 2 千円と比べ 1 億 8,740 万 3 千円（15.7%）増加している。

決算額の内訳を前年度と比べると、建設改良費が 2 億 1,693 万 9 千円（28.5%）増加し、企業債償還金が 2,953 万 6 千円（6.8%）減少している。

#### ウ 資本的収支不足の補填

資本的収入額が資本的支出額に不足する額 13 億 153 万 8 千円は、当年度分消費税及び地方消費税資本的収支調整額 8,621 万円、過年度分損益勘定留保資金 5,822 万 4 千円、当年度分損益勘定留保資金 9 億 4,833 万 3 千円、建設改良積立金 2 億 877 万円で補填されている。

資本的収支の実績推移は、次表のとおりである。

（単位 円）

| 区分                         | 令和 4 年度       | 令和 5 年度       | 令和 6 年度       |
|----------------------------|---------------|---------------|---------------|
| 企業債                        | —             | 26,400,000    | 69,600,000    |
| 補助金                        | 98,000        | 120,000       | 802,000       |
| 出資金                        | 8,582,614     | 2,573,778     | 2,232,845     |
| 負担金                        | 10,128,200    | 108,504,529   | 9,842,000     |
| 資本的収入合計（A）                 | 18,808,814    | 137,598,307   | 82,476,845    |
| 建設改良費                      | 603,322,731   | 760,603,317   | 977,542,167   |
| 企業債償還金                     | 507,418,628   | 436,008,271   | 406,472,411   |
| 国庫補助金返還金                   | 2,900,181     | —             | —             |
| 資本的支出合計（B）                 | 1,113,641,540 | 1,196,611,588 | 1,384,014,578 |
| 要補填額（B）－（A）                | 1,094,832,726 | 1,059,013,281 | 1,301,537,733 |
| 当年度分消費税及び地方消費税<br>資本的収支調整額 | 52,708,608    | 66,885,543    | 86,210,493    |
| 過年度分損益勘定留保資金               | 34,524,593    | —             | 58,224,000    |
| 当年度分損益勘定留保資金               | 917,035,917   | 865,789,305   | 948,332,991   |
| 建設改良積立金                    | 90,563,608    | 126,338,433   | 208,770,249   |
| 補填財源合計                     | 1,094,832,726 | 1,059,013,281 | 1,301,537,733 |

## 2 業務の状況

### (1) 給水状況

給水人口、配水量、有収水量の推移については、次表のとおりである。

| 区分                |                   | 単位             | 令和 2 年度      | 令和 3 年度      | 令和 4 年度      | 令和 5 年度      | 令和 6 年度      |
|-------------------|-------------------|----------------|--------------|--------------|--------------|--------------|--------------|
| 給水人口              |                   | 人              | 99, 230      | 97, 879      | 96, 481      | 94, 734      | 92, 805      |
| 給水戸数              |                   | 戸              | 42, 162      | 42, 310      | 42, 443      | 42, 330      | 42, 060      |
| 年間総配水量            |                   | m <sup>3</sup> | 12, 136, 550 | 11, 780, 467 | 11, 487, 730 | 11, 204, 565 | 11, 024, 471 |
| 内受水量              |                   | m <sup>3</sup> | 6, 797, 357  | 6, 226, 310  | 6, 224, 141  | 6, 241, 217  | 6, 210, 826  |
| 年間有収水量            |                   | m <sup>3</sup> | 10, 934, 482 | 10, 704, 772 | 10, 603, 758 | 10, 415, 412 | 10, 068, 034 |
| 有収率               |                   | %              | 90. 1        | 90. 9        | 92. 3        | 93. 0        | 91. 3        |
| 1 日平均<br>配水量      |                   | m <sup>3</sup> | 33, 251      | 32, 275      | 31, 473      | 30, 614      | 30, 204      |
| 1 日平均<br>有収水量     |                   | m <sup>3</sup> | 29, 957      | 29, 328      | 29, 051      | 28, 457      | 27, 584      |
| 1 日 1 人平均<br>有収水量 |                   | リットル           | 301. 90      | 299. 64      | 301. 11      | 300. 39      | 297. 22      |
| 家庭用               | 13・20 ミリ<br>有収水量  | m <sup>3</sup> | 8, 676, 453  | 8, 458, 737  | 8, 409, 838  | 8, 254, 029  | 7, 983, 131  |
|                   | 1 日 1 人平均<br>有収水量 | リットル           | 239. 6       | 236. 8       | 238. 8       | 238. 1       | 235. 7       |
|                   | 対前年度<br>増減        | リットル           | 8. 2         | △2. 8        | 2. 0         | △0. 7        | △2. 4        |

給水人口は92,805人で、前年度に比べ1,929人(2.0%)減少している。

年間総配水量は1,102万4,471m<sup>3</sup>で、前年度に比べ18万94m<sup>3</sup>(1.6%)減少しており、1日平均配水量は3万204m<sup>3</sup>となっている。

有収水量は1,006万8,034m<sup>3</sup>で、前年度に比べ34万7,378m<sup>3</sup>(3.3%)減少しており、有収率は91.3%で、前年度に比べ1.7ポイント低下した。

有収水量のうち最も大きな割合を占める家庭用水(13・20ミリ)については、前年度に比べ27万898m<sup>3</sup>(3.3%)減少している。1日1人平均有収水量は2.4ℓ減少している。

## (2) 施設の利用状況

施設の利用状況の推移については、次表のとおりである。

(単位  $\text{m}^3/\text{日} \cdot \%$ )

| 区分                         | 令和4年度  | 令和5年度  | 令和6年度  | 対前年度増減            |
|----------------------------|--------|--------|--------|-------------------|
| 1日配水能力 (A)                 | 78,857 | 78,857 | 78,857 | 0                 |
| 1日最大配水量 (B)                | 41,674 | 34,630 | 33,224 | $\Delta 1,406$    |
| 1日平均配水量 (C)                | 31,473 | 30,614 | 30,204 | $\Delta 410$      |
| 施設利用率 $(C)/(A) \times 100$ | 39.9   | 38.8   | 38.3   | $\Delta 0.5$ ポイント |
| 最大稼働率 $(B)/(A) \times 100$ | 52.8   | 43.9   | 42.1   | $\Delta 1.8$ ポイント |
| 負荷率 $(C)/(B) \times 100$   | 75.5   | 88.4   | 90.9   | 2.5 ポイント          |

施設利用率は38.3%で、前年度に比べ0.5ポイント低下した。これは1日平均配水量が1.3%減少したことによるものである。

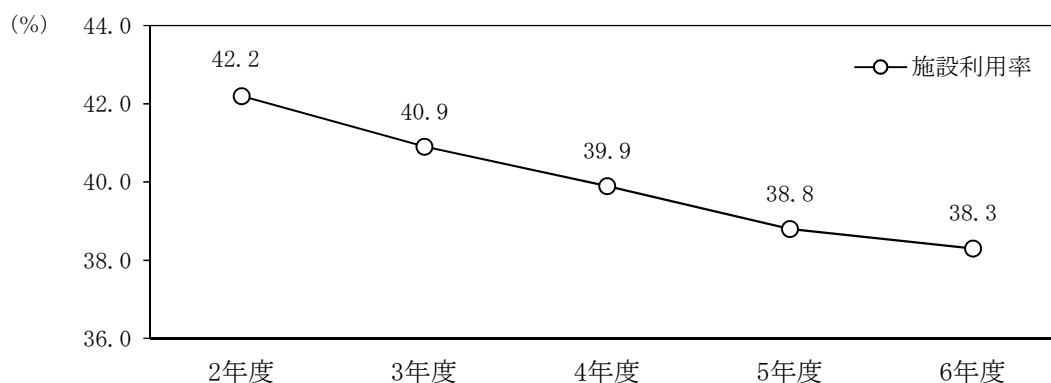
※1日配水能力とは、1日に配水できる量を示すもので、浄水場の施設規模を表している。受水している場合は、受水量も含める。

※施設利用率は、1日配水能力に対する1日平均配水量の割合を示すもので、施設の利用状況の良否を見る。100%に近いほど有効に利用されている。

※最大稼働率は、1日配水能力に対する1日最大配水量の割合を示すもので、施設利用の適切性を見る。高いほど良いが、100%に近づいても良くない。

※負荷率は、1日最大配水量に対する1日平均配水量の割合を示すもので、施設の利用度を把握する。100%に近いほど良い。

施設利用率の推移



### 3 損益計算書

#### (1) 収益

収益比較については、次表のとおりである。

(単位 円・%)

| 区分        | 令和5年度         |       | 令和6年度         |       | 対前年度比較      |       |
|-----------|---------------|-------|---------------|-------|-------------|-------|
|           | 金額            | 構成比率  | 金額            | 構成比率  | 増減額         | 増減率   |
| 営業収益      | 2,348,396,828 | 90.5  | 2,313,435,691 | 89.3  | △34,961,137 | △1.5  |
| 給水収益      | 2,307,676,085 | 89.0  | 2,239,113,640 | 86.5  | △68,562,445 | △3.0  |
| 受託工事収益    | 2,918,201     | 0.1   | 7,027,875     | 0.3   | 4,109,674   | 140.8 |
| その他の営業収益  | 37,802,542    | 1.5   | 67,294,176    | 2.6   | 29,491,634  | 78.0  |
| 営業外収益     | 195,400,725   | 7.5   | 208,240,741   | 8.0   | 12,840,016  | 6.6   |
| 受取利息及び配当金 | 265,805       | 0.0   | 2,335,305     | 0.1   | 2,069,500   | 778.6 |
| 加入金       | 15,150,000    | 0.6   | 11,660,000    | 0.5   | △3,490,000  | △23.0 |
| 他会計補助金    | 148,816,609   | 5.7   | 156,936,522   | 6.1   | 8,119,913   | 5.5   |
| 長期前受金戻入   | 21,349,095    | 0.8   | 24,275,809    | 0.9   | 2,926,714   | 13.7  |
| 引当金戻入     | —             | —     | 2,753,855     | 0.1   | 2,753,855   | 皆増    |
| 雑収益       | 9,819,216     | 0.4   | 10,279,250    | 0.4   | 460,034     | 4.7   |
| 特別利益      | 50,061,214    | 1.9   | 68,103,802    | 2.6   | 18,042,588  | 36.0  |
| 過年度損益修正益  | 61,214        | 0.0   | 148,244       | 0.0   | 87,030      | 142.2 |
| その他特別利益   | 50,000,000    | 1.9   | 67,955,558    | 2.6   | 17,955,558  | 35.9  |
| 事業収益      | 2,593,858,767 | 100.0 | 2,589,780,234 | 100.0 | △4,078,533  | △0.2  |

事業収益は25億8,978万円で、前年度に比べ407万9千円(0.2%)減少している。これは、営業外収益が1,284万円(6.6%)、特別利益が1,804万3千円(36.0%)増加したものの、営業収益が3,496万1千円(1.5%)減少したためである。

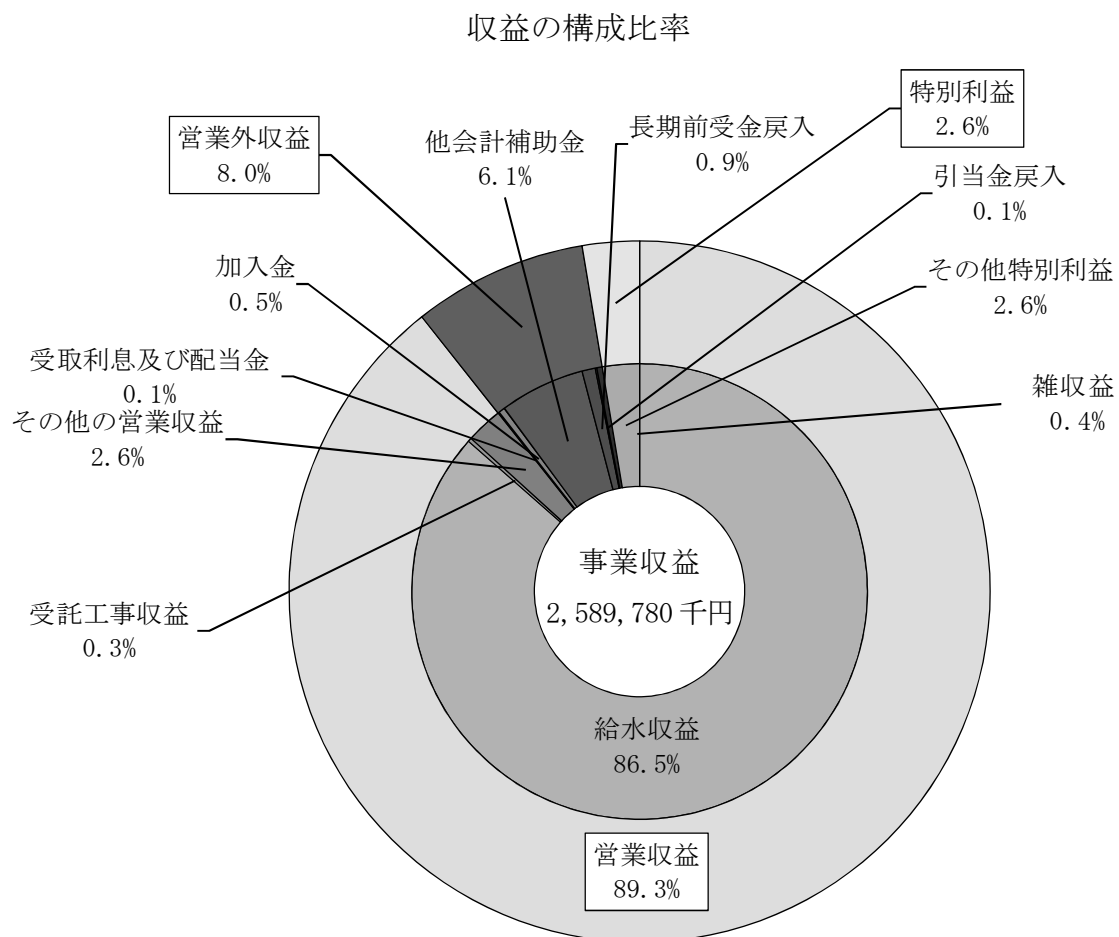
営業収益が減少した主な要因は、その他の営業収益が2,949万2千円(78.0%)増加したものの、給水収益が6,856万2千円(3.0%)減少したためである。

営業外収益が増加した主な要因は、加入金が349万円(23.0%)減少したものの、他会計補助金が812万円(5.5%)、長期前受金戻入が292万7千円(13.7%)増加、引当金戻入が275万4千円皆増、受取利息及び配当金が207万円(778.6%)増加したためである。

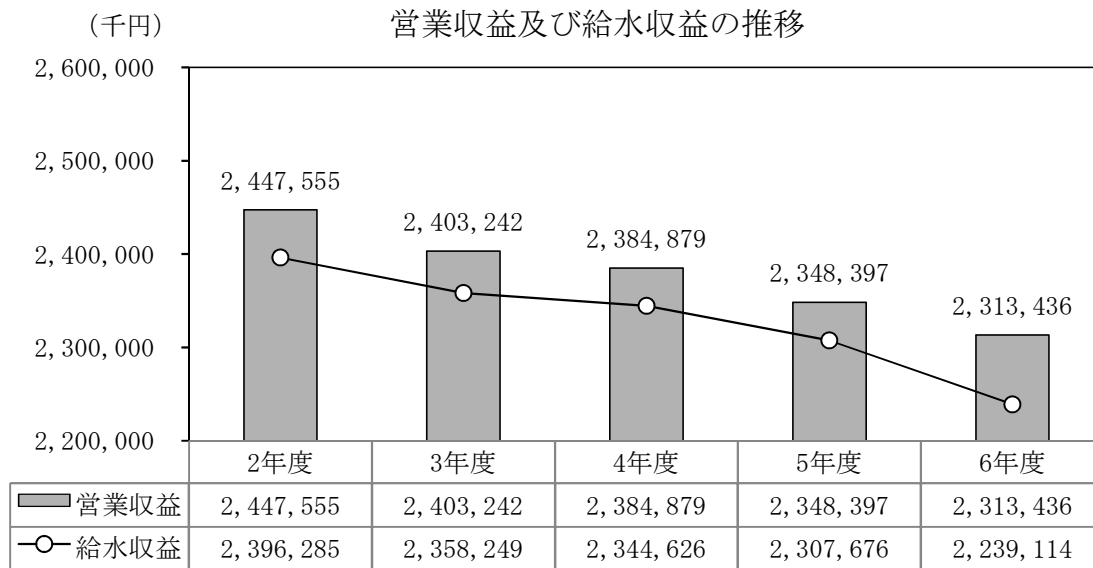
特別利益が増加した主な要因は、前年度の特別修繕引当金の戻入が5,000万円皆減となり、令和6年7月の大雨災害による公共土木施設災害復旧事業費国庫負担金が6,741万1

千円皆増したことにより、その他特別利益が 1,795 万 6 千円（35.9%）増加したためである。

令和 6 年度の収益の構成比率は、次のとおりである。



営業収益及び給水収益の推移については、次のとおりである。



給水収益比較については、次表のとおりである。

(単位 円・%)

| 区分     | 令和5年度         | 令和6年度         | 増減額         | 増減率   |
|--------|---------------|---------------|-------------|-------|
| 口径13ミリ | 947,097,770   | 905,278,450   | △41,819,320 | △4.4  |
| 20     | 689,313,455   | 684,684,620   | △4,628,835  | △0.7  |
| 25     | 107,594,900   | 103,098,240   | △4,496,660  | △4.2  |
| 30     | 19,662,250    | 18,827,650    | △834,600    | △4.2  |
| 40     | 221,102,450   | 209,072,170   | △12,030,280 | △5.4  |
| 50     | 179,175,540   | 172,687,250   | △6,488,290  | △3.6  |
| 75     | 98,247,160    | 99,446,400    | 1,199,240   | 1.2   |
| 100    | 29,101,040    | 29,836,320    | 735,280     | 2.5   |
| 湯屋用    | 3,863,200     | 3,585,440     | △277,760    | △7.2  |
| 船舶用    | 1,648,360     | 1,944,600     | 296,240     | 18.0  |
| 臨時用    | 3,305,160     | 2,744,100     | △561,060    | △17.0 |
| プール用   | 7,564,800     | 7,908,400     | 343,600     | 4.5   |
| 計      | 2,307,676,085 | 2,239,113,640 | △68,562,445 | △3.0  |

|              |               |               |             |      |
|--------------|---------------|---------------|-------------|------|
| 家庭用水(13・20ミ) | 1,636,411,225 | 1,589,963,070 | △46,448,155 | △2.8 |
| 事業用水         | 654,883,340   | 632,968,030   | △21,915,310 | △3.3 |

給水収益は、22 億 3,911 万 4 千円で、前年度に比べ 6,856 万 2 千円（3.0％）減少している。主な要因は、家庭用水（13・20 ミリ）が 4,644 万 8 千円（2.8％）、事業用水が 2,191 万 5 千円（3.3％）減少したためである。

口径別では、前年度に比べ 13 ミリの落ち込みが最も大きく、4,181 万 9 千円（4.4％）減少し、次いで 40 ミリが 1,203 万円（5.4％）減少している。

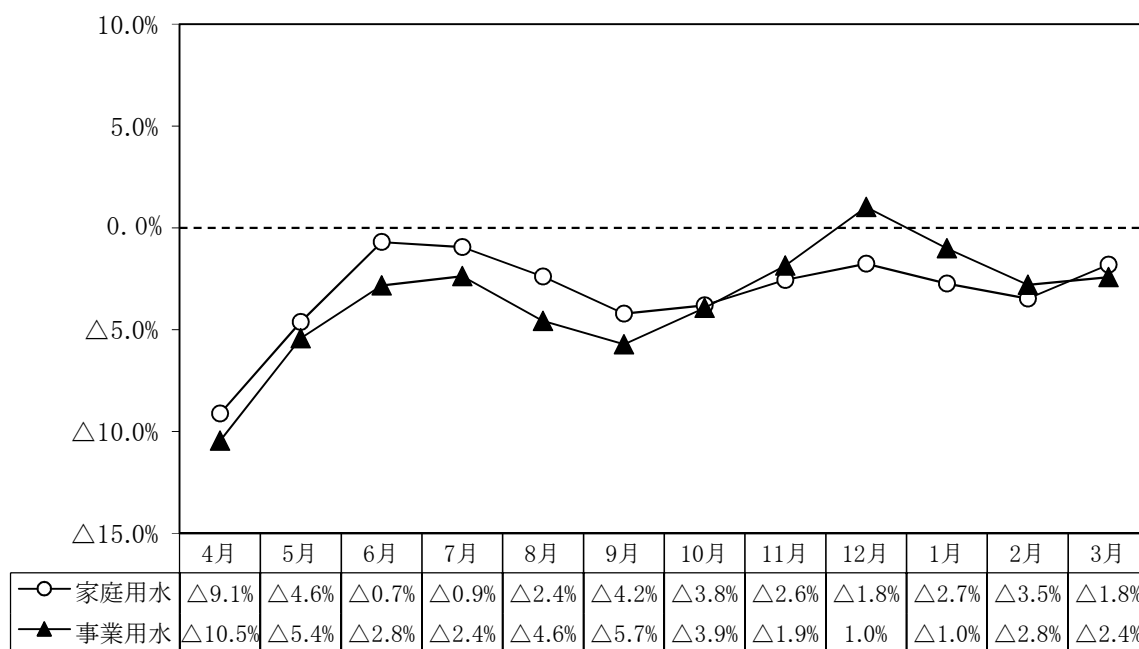
給水量 (単位  $\text{m}^3 \cdot \%$ )

| 区分             | 令和 5 年度   | 令和 6 年度   | 増減量      | 増減率  |
|----------------|-----------|-----------|----------|------|
| 家庭用水(13・20 ミリ) | 8,254,029 | 7,983,131 | △270,898 | △3.3 |
| 事業用水           | 2,091,315 | 2,014,921 | △76,394  | △3.7 |

家庭用水は、前年度に比べ 27 万 898  $\text{m}^3$ （3.3％）減少し、うち 13 ミリは前年度に比べ 23 万 5,378  $\text{m}^3$ （4.7％）、20 ミリは 3 万 5,520  $\text{m}^3$ （1.1％）減少している。

事業用水は、前年度に比べ 7 万 6,394  $\text{m}^3$ （3.7％）減少している。

(対前年度比) 給水量前年度比（R6－R5）



月別、区分別の給水量前年度比では、事業用水が 12 月に上回ったほかは、前年度を下回っている。特に、家庭用水、事業用水ともに 4 月、5 月及び 9 月の落ち込みが大きくなっている。

## (2) 費用

費用比較については、次表のとおりである。

(単位 円・%)

| 区分                | 令和 5 年度       |       | 令和 6 年度       |       | 対前年度比較      |         |
|-------------------|---------------|-------|---------------|-------|-------------|---------|
|                   | 金額            | 構成比率  | 金額            | 構成比率  | 増減額         | 増減率     |
| 営 業 費 用           | 2,305,711,871 | 97.9  | 2,343,874,271 | 90.6  | 38,162,400  | 1.7     |
| 原水及び浄水費           | 718,599,994   | 30.5  | 704,714,864   | 27.2  | △13,885,130 | △1.9    |
| 内 受 水 費           | 398,867,656   | 16.9  | 397,564,436   | 15.4  | △1,303,220  | △0.3    |
| 配水及び給水費           | 319,195,383   | 13.6  | 339,369,511   | 13.1  | 20,174,128  | 6.3     |
| 受託工事費             | —             | —     | 5,146,000     | 0.2   | 5,146,000   | 皆増      |
| 総 係 費             | 242,535,394   | 10.3  | 276,094,126   | 10.7  | 33,558,732  | 13.8    |
| 減価償却費             | 927,511,672   | 39.4  | 937,970,688   | 36.3  | 10,459,016  | 1.1     |
| 資産減耗費             | 97,869,428    | 4.2   | 80,579,082    | 3.1   | △17,290,346 | △17.7   |
| 営 業 外 費 用         | 45,272,852    | 1.9   | 43,703,250    | 1.7   | △1,569,602  | △3.5    |
| 支払利息及び<br>企業債取扱諸費 | 42,032,137    | 1.8   | 32,767,906    | 1.3   | △9,264,231  | △22.0   |
| 雑 支 出             | 3,240,715     | 0.1   | 10,935,344    | 0.4   | 7,694,629   | 237.4   |
| 特 別 損 失           | 3,082,548     | 0.1   | 198,609,467   | 7.7   | 195,526,919 | 6,343.0 |
| 過年度損益修正損          | 3,082,548     | 0.1   | 321,960       | 0.0   | △2,760,588  | △89.6   |
| 災害による損失           | —             | —     | 198,287,507   | 7.7   | 198,287,507 | 皆増      |
| 事 業 費 用           | 2,354,067,271 | 100.0 | 2,586,186,988 | 100.0 | 232,119,717 | 9.9     |

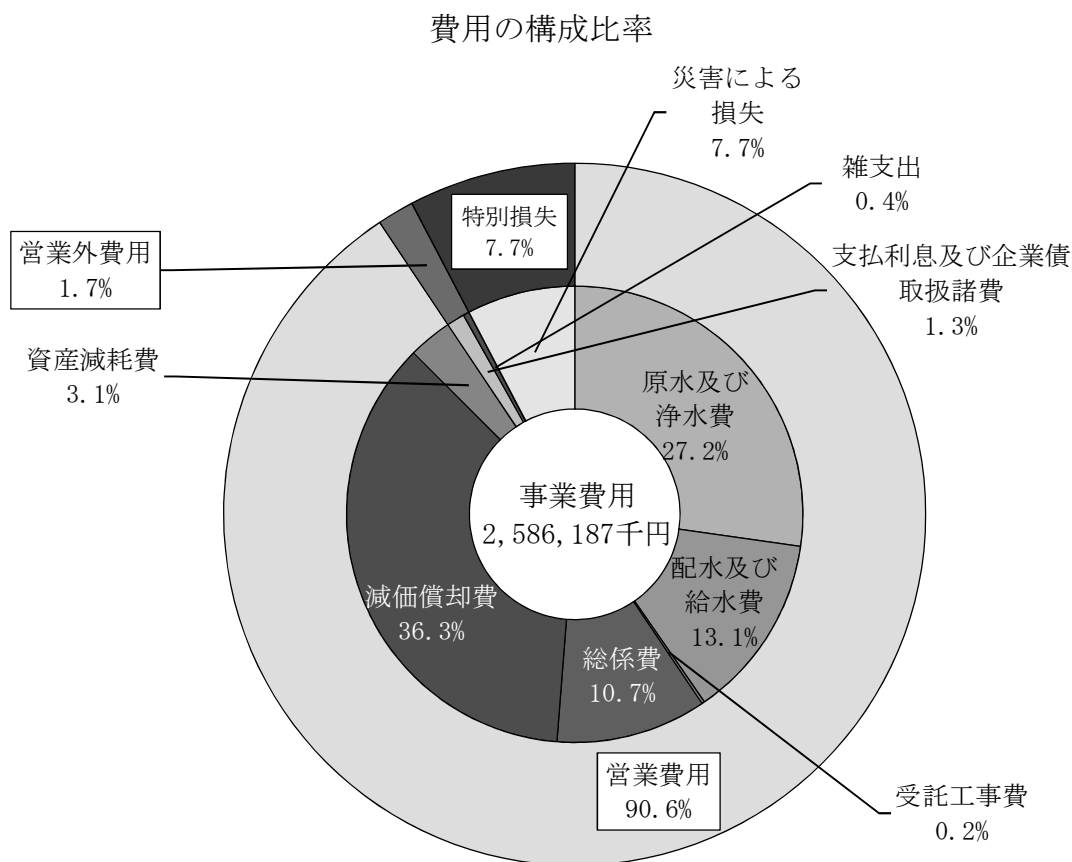
事業費用は25億8,618万7千円で、前年度に比べ2億3,212万円(9.9%)増加している。これは、営業費用が3,816万2千円(1.7%)、特別損失が1億9,552万7千円(6,343.0%)増加したためである。

営業費用が増加した主な要因は、資産減耗費が1,729万円(17.7%)、原水及び浄水費が1,388万5千円(1.9%)減少したものの、総係費が3,355万9千円(13.8%)、配水及び給水費が2,017万4千円(6.3%)、減価償却費が1,045万9千円(1.1%)増加したためである。

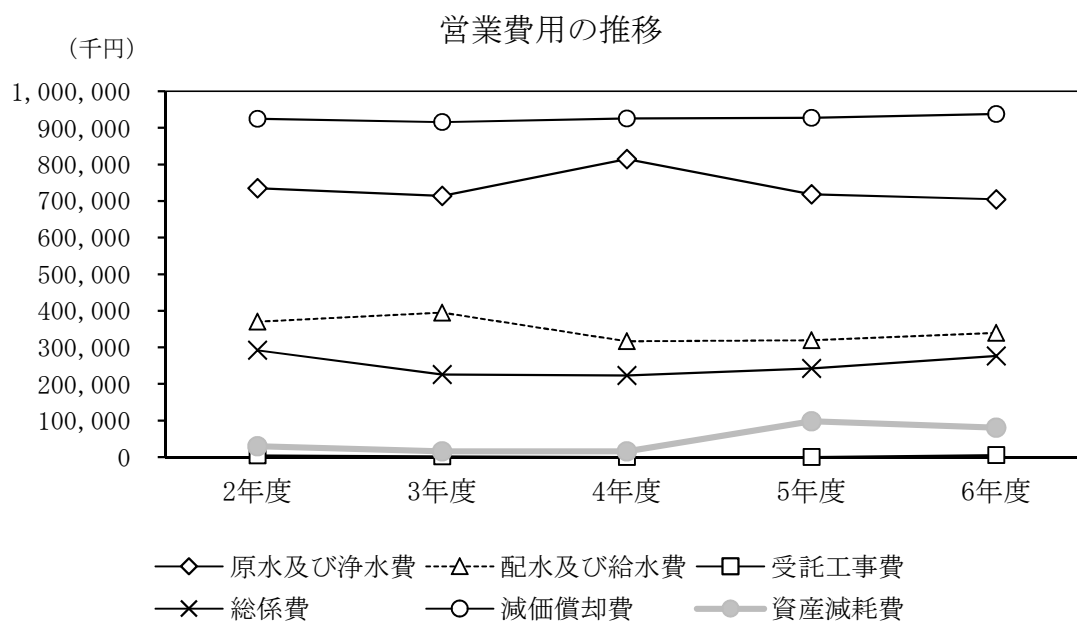
営業外費用が減少した主な要因は、雑支出が769万5千円(237.4%)増加したものの、支払利息及び企業債取扱諸費が企業債残高の減少により926万4千円(22.0%)減少したためである。

特別損失が増加した主な要因は、令和6年7月の大雨災害に伴う応急復旧工事や被災した固定資産の除却等により、災害による損失が1億9,828万8千円皆増したためである。

令和6年度の費用の構成比率は、次のとおりである。



主な営業費用の推移については、次のとおりである。



事業費用節別比較については、次表のとおりである。

(単位 円・%)

| 区分    |              | 令和 5 年度       |       | 令和 6 年度       |       | 対前年度比較      |         |
|-------|--------------|---------------|-------|---------------|-------|-------------|---------|
|       |              | 金額            | 構成比率  | 金額            | 構成比率  | 増減額         | 増減率     |
| 営業費用  |              | 2,305,711,871 | 97.9  | 2,343,874,271 | 90.6  | 38,162,400  | 1.7     |
| 人件費   |              | 227,925,014   | 9.7   | 254,729,369   | 9.8   | 26,804,355  | 11.8    |
| 委託料   |              | 436,464,256   | 18.5  | 455,887,352   | 17.6  | 19,423,096  | 4.5     |
| 受水費   |              | 398,867,656   | 16.9  | 397,564,436   | 15.4  | △1,303,220  | △0.3    |
| 受託工事費 |              | —             | —     | 5,146,000     | 0.2   | 5,146,000   | 皆増      |
| 修繕費   |              | 159,786,819   | 6.8   | 155,466,196   | 6.0   | △4,320,623  | △2.7    |
| 材料費   |              | 1,220,541     | 0.1   | 681,102       | 0.0   | △539,439    | △44.2   |
| 路面復旧費 |              | 10,886,047    | 0.5   | 10,388,000    | 0.4   | △498,047    | △4.6    |
| 減価償却費 |              | 927,511,672   | 39.4  | 937,970,688   | 36.3  | 10,459,016  | 1.1     |
| 資産減耗費 |              | 97,869,428    | 4.2   | 80,579,082    | 3.1   | △17,290,346 | △17.7   |
| その他   |              | 45,180,438    | 1.9   | 45,462,046    | 1.8   | 281,608     | 0.6     |
| 営業外費用 |              | 45,272,852    | 1.9   | 43,703,250    | 1.7   | △1,569,602  | △3.5    |
| 特別損失  |              | 3,082,548     | 0.1   | 198,609,467   | 7.7   | 195,526,919 | 6,343.0 |
| 事業費用  |              | 2,354,067,271 | 100.0 | 2,586,186,988 | 100.0 | 232,119,717 | 9.9     |
| 参考    | 受託工事費を除く営業費用 | 2,305,711,871 | 97.9  | 2,338,728,271 | 90.4  | 33,016,400  | 1.4     |

人件費は、前年度に比べ 2,680 万 4 千円（11.8%）増加しているが、この主な要因は、退職給付費が増加したためである。

委託料は、前年度に比べ 1,942 万 3 千円（4.5%）増加しているが、この主な要因は、酒田市浄水施設運転管理等業務委託が 753 万円（2.9%）の増、上水道管路情報管理システムデータ追加業務委託 655 万 3 千円が皆増となったためである。

資産減耗費は、前年度に比べ 1,729 万円（17.7%）減少しているが、これは固定資産の撤去に伴う固定資産除却費が減少したためである。

前年度に比べ事業費用は、2 億 3,212 万円（9.9%）増加し、受託工事費の影響を除いた営業費用は 3,301 万 6 千円（1.4%）増加している。

### (3) 損益

損益計算比較については、次表のとおりである。

(単位 円・%)

| 区分                                | 令和5年度         | 令和6年度         | 対前年度比較       |         |
|-----------------------------------|---------------|---------------|--------------|---------|
|                                   |               |               | 増減額          | 増減率     |
| 営業収益 (ア)                          | 2,348,396,828 | 2,313,435,691 | △34,961,137  | △1.5    |
| 営業費用 (イ)                          | 2,305,711,871 | 2,343,874,271 | 38,162,400   | 1.7     |
| 営業利益又は<br>営業損失 (△) (ウ)<br>(ア)－(イ) | 42,684,957    | △30,438,580   | △73,123,537  | △171.3  |
| 営業外収益 (エ)                         | 195,400,725   | 208,240,741   | 12,840,016   | 6.6     |
| 営業外費用 (オ)                         | 45,272,852    | 43,703,250    | △1,569,602   | △3.5    |
| 経常利益 (カ)<br>(ウ)＋(エ)－(オ)           | 192,812,830   | 134,098,911   | △58,713,919  | △30.5   |
| 特別利益 (キ)                          | 50,061,214    | 68,103,802    | 18,042,588   | 36.0    |
| 過年度損益修正益                          | 61,214        | 148,244       | 87,030       | 142.2   |
| その他特別利益                           | 50,000,000    | 67,955,558    | 17,955,558   | 35.9    |
| 特別損失 (ク)                          | 3,082,548     | 198,609,467   | 195,526,919  | 6,343.0 |
| 過年度損益修正損                          | 3,082,548     | 321,960       | △2,760,588   | △89.6   |
| 災害による損失                           | —             | 198,287,507   | 198,287,507  | 皆増      |
| 当年度純利益 (ケ)<br>(カ)＋(キ)－(ク)         | 239,791,496   | 3,593,246     | △236,198,250 | △98.5   |
| 前年度繰越利益剰余金 (コ)                    | 283,613       | 75,109        | △208,504     | △73.5   |
| その他未処分利益剰余金<br>変動額 (サ)            | 126,338,433   | 208,770,249   | 82,431,816   | 65.2    |
| 当年度未処分利益剰余金<br>(ケ)＋(コ)＋(サ)        | 366,413,542   | 212,438,604   | △153,974,938 | △42.0   |

|                 |               |               |             |       |
|-----------------|---------------|---------------|-------------|-------|
| 経常収益<br>(ア)＋(エ) | 2,543,797,553 | 2,521,676,432 | △22,121,121 | △0.9  |
| 経常費用<br>(イ)＋(オ) | 2,350,984,723 | 2,387,577,521 | 36,592,798  | 1.6   |
| 経常利益 (カ)        | 192,812,830   | 134,098,911   | △58,713,919 | △30.5 |

当年度の営業損益は、3,043万9千円の営業損失となっている。経常利益は1億3,409万9千円で、前年度に比べ5,871万4千円(30.5%)減少している。特別損益を加えた当年度純利益は359万3千円で、前年度に比べ2億3,619万8千円(98.5%)減少している。

当年度純利益に前年度繰越利益剰余金7万5千円とその他未処分利益剰余金変動額2億877万円を加算すると、当年度未処分利益剰余金は2億1,243万9千円となり、前年度に比べ1億5,397万5千円(42.0%)減少している。

供給単価、給水原価等の推移については、次表のとおりである。

| 区分                       | 単位             | 令和4年度      | 令和5年度      | 令和6年度      | 対前年度増減   |
|--------------------------|----------------|------------|------------|------------|----------|
| 1 m <sup>3</sup> 当たり供給単価 | 円              | 221.11     | 221.56     | 222.40     | 0.84     |
| 1 m <sup>3</sup> 当たり給水原価 | 円              | 219.62     | 223.67     | 234.22     | 10.55    |
| 料金回収率                    | %              | 100.68     | 99.06      | 94.95      | △4.11    |
| 有収水量                     | m <sup>3</sup> | 10,603,758 | 10,415,412 | 10,068,034 | △347,378 |
| 有収率                      | %              | 92.3       | 93.0       | 91.3       | △1.7     |
| 給水収益                     | 千円             | 2,344,626  | 2,307,676  | 2,239,114  | △68,562  |
| 給水費用                     | 千円             | 2,328,746  | 2,329,636  | 2,358,156  | 28,520   |

供給単価（給水収益）は222円40銭で、前年度より84銭高くなっている。

給水原価（給水費用）は234円22銭で、前年度より10円55銭高くなっている。給水原価が高くなった要因は、主に営業費用の人件費や委託料の増加に伴い経常費用が増加したためである。

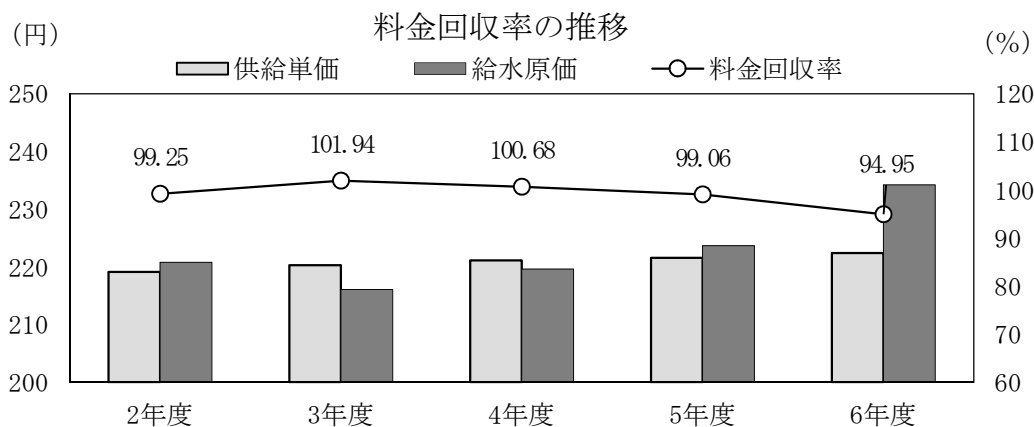
供給単価が給水原価を11円82銭下回り、料金回収率は94.95%となっている。

※供給単価は、有収水量1 m<sup>3</sup>当たりの給水収益である。

※給水原価は、有収水量1 m<sup>3</sup>当たりの給水費用（経常費用から受託工事費、附帯事業費等、長期前受金戻入を除く）である。

※料金回収率は、供給単価と給水原価の関係を見るものであり、料金回収率が100%を下回っている場合、給水に係る費用が水道料金収入以外の収入で賄われていることを意味する。

$$\text{料金回収率} = \frac{\text{供給単価}}{\text{給水原価}}$$



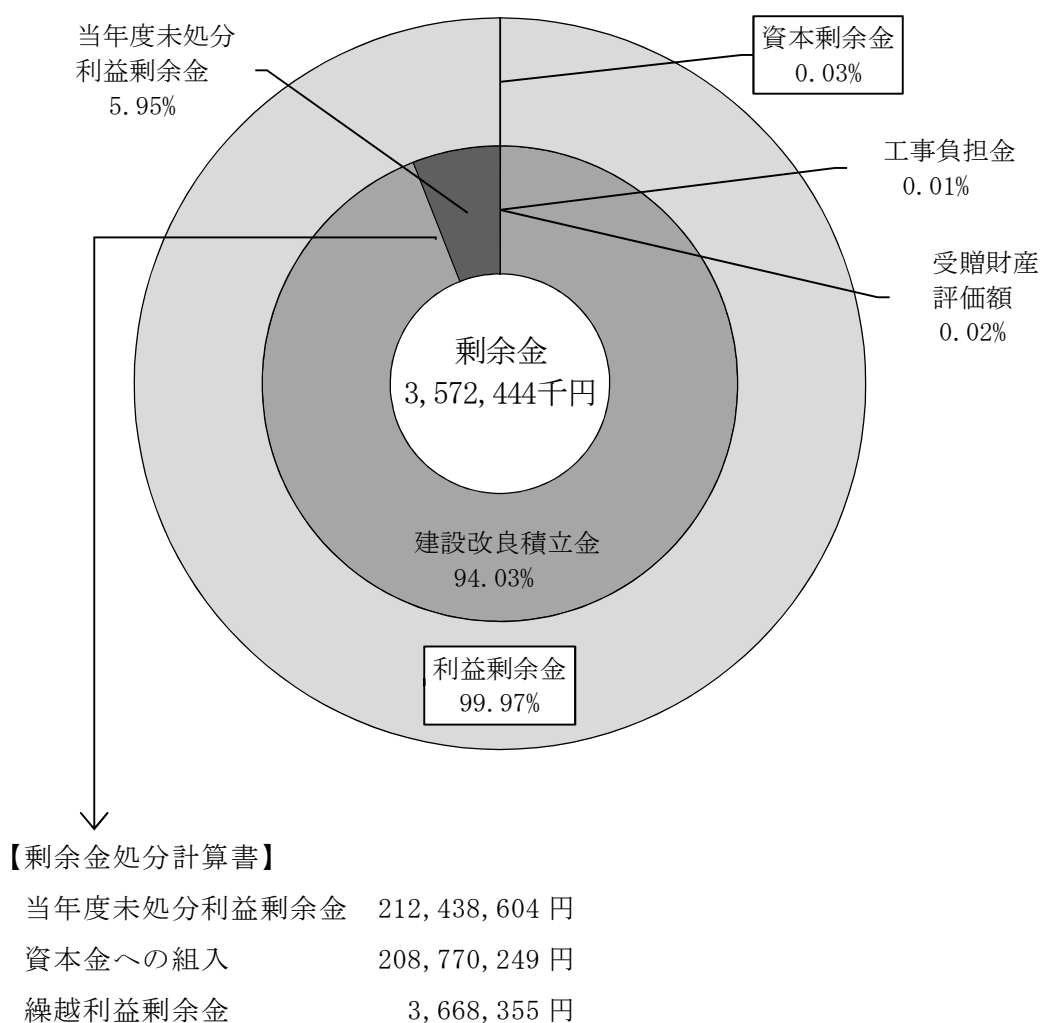
#### 4 剰余金計算書及び剰余金処分計算書

剰余金は35億7,244万4千円で、その内訳は、資本剰余金が90万7千円、利益剰余金が35億7,153万7千円となっている。

利益剰余金のうち、積立金については、建設改良積立金に2億4,000万円を積み立て、年度末に2億877万円を取り崩したことにより、年度末残高は33億5,909万8千円となっている。

当年度末処分利益剰余金2億1,243万9千円は、地方公営企業法第32条第2項の規定により議会の議決を経て、資本金へ2億877万円を組み入れ、残額366万8千円は翌年度へ繰り越すこととしている。

剰余金構成比率及び処分計算



# 5 貸借対照表

貸借対照表比較については、次表のとおりである。

(単位 円・%)

| 区分      |                 | 令和 5 年度        |       | 令和 6 年度        |       | 対前年度比較       |       |
|---------|-----------------|----------------|-------|----------------|-------|--------------|-------|
|         |                 | 金額             | 構成比率  | 金額             | 構成比率  | 増減額          | 増減率   |
| 資産の部    | 固定資産            | 18,579,842,080 | 77.1  | 18,434,993,008 | 77.1  | △144,849,072 | △0.8  |
|         | 流動資産            | 5,521,967,633  | 22.9  | 5,477,512,474  | 22.9  | △44,455,159  | △0.8  |
|         | 現金・預金           | 5,125,696,882  | 21.3  | 5,106,696,094  | 21.4  | △19,000,788  | △0.4  |
|         | 未収金             | 380,106,407    | 1.6   | 354,985,362    | 1.5   | △25,121,045  | △6.6  |
|         | 未収金貸倒引当金        | △1,659,000     | △0.0  | △1,636,000     | △0.0  | 23,000       | △1.4  |
|         | 貯蔵品             | 17,060,494     | 0.1   | 16,701,538     | 0.1   | △358,956     | △2.1  |
|         | 前払費用            | 762,850        | 0.0   | 765,480        | 0.0   | 2,630        | 0.3   |
|         | 資産合計            | 24,101,809,713 | 100.0 | 23,912,505,482 | 100.0 | △189,304,231 | △0.8  |
| 負債・資本の部 | 固定負債            | 2,772,144,846  | 11.5  | 2,438,250,686  | 10.2  | △333,894,160 | △12.0 |
|         | 企業債             | 1,410,352,104  | 5.9   | 1,127,331,373  | 4.7   | △283,020,731 | △20.1 |
|         | 引当金             | 1,361,792,742  | 5.7   | 1,310,919,313  | 5.5   | △50,873,429  | △3.7  |
|         | 流動負債            | 844,891,476    | 3.5   | 986,707,369    | 4.1   | 141,815,893  | 16.8  |
|         | 企業債             | 405,119,039    | 1.7   | 351,267,359    | 1.5   | △53,851,680  | △13.3 |
|         | 未払金             | 229,277,618    | 1.0   | 511,855,140    | 2.1   | 282,577,522  | 123.2 |
|         | 未払費用            | 9,315,789      | 0.0   | 46,416,291     | 0.2   | 37,100,502   | 398.3 |
|         | 前受金             | 86,052         | 0.0   | 135,264        | 0.0   | 49,212       | 57.2  |
|         | 引当金             | 198,232,876    | 0.8   | 73,602,879     | 0.3   | △124,629,997 | △62.9 |
|         | その他流動負債         | 2,860,102      | 0.0   | 3,430,436      | 0.0   | 570,334      | 19.9  |
|         | 繰延収益            | 739,579,941    | 3.1   | 736,527,886    | 3.1   | △3,052,055   | △0.4  |
|         | 長期前受金           | 937,911,659    | 3.9   | 958,206,258    | 4.0   | 20,294,599   | 2.2   |
|         | 長期前受金<br>収益化累計額 | △198,331,718   | △0.8  | △221,678,372   | △0.9  | △23,346,654  | 11.8  |
|         | 負債合計            | 4,356,616,263  | 18.1  | 4,161,485,941  | 17.4  | △195,130,322 | △4.5  |
|         | 資本金             | 16,050,004,516 | 66.6  | 16,178,575,794 | 67.7  | 128,571,278  | 0.8   |
|         | 自己資本金           | 16,050,004,516 | 66.6  | 16,178,575,794 | 67.7  | 128,571,278  | 0.8   |
|         | (旧酒田市引継)        | 11,660,320,360 | 48.4  | 11,660,320,360 | 48.8  | 0            | 0.0   |
|         | (旧松山町引継)        | 743,127,179    | 3.1   | 743,127,179    | 3.1   | 0            | 0.0   |
|         | (旧平田町引継)        | 529,387,530    | 2.2   | 529,387,530    | 2.2   | 0            | 0.0   |
|         | 剰余金             | 3,695,188,934  | 15.3  | 3,572,443,747  | 14.9  | △122,745,187 | △3.3  |
|         | 資本剰余金           | 906,978        | 0.0   | 906,978        | 0.0   | 0            | 0.0   |
|         | 利益剰余金           | 3,694,281,956  | 15.3  | 3,571,536,769  | 14.9  | △122,745,187 | △3.3  |
|         | 資本合計            | 19,745,193,450 | 81.9  | 19,751,019,541 | 82.6  | 5,826,091    | 0.0   |
|         | 負債・資本合計         | 24,101,809,713 | 100.0 | 23,912,505,482 | 100.0 | △189,304,231 | △0.8  |

資産合計は、239 億 1,250 万 5 千円で、固定資産が 184 億 3,499 万 3 千円（有形固定資産 468 億 8,897 万 9 千円、減価償却累計額 284 億 5,489 万 4 千円、無形固定資産 90 万 8 千円）、流動資産が 54 億 7,751 万 2 千円となっている。

固定資産は、配水管改良工事により構築物が増加したものの、減価償却及び除却により、前年度に比べ 1 億 4,484 万 9 千円（0.8%）減少している。

負債合計は、41 億 6,148 万 6 千円で、固定負債が 24 億 3,825 万 1 千円、流動負債が 9 億 8,670 万 7 千円、繰延収益が 7 億 3,652 万 8 千円となっている。

固定負債は、前年度に比べ 3 億 3,389 万 4 千円（12.0%）減少している。これは、企業債が 2 億 8,302 万 1 千円（20.1%）、引当金が 5,087 万 3 千円（3.7%）減少したためである。なお、引当金 13 億 1,091 万 9 千円の内訳は、退職給付引当金 3 億 8,530 万 1 千円、修繕引当金 9 億 2,561 万 8 千円である。

流動負債は、前年度に比べ 1 億 4,181 万 6 千円（16.8%）増加している。これは主に、引当金が 1 億 2,463 万円（62.9%）、企業債が 5,385 万 2 千円（13.3%）減少したものの、未払金が 2 億 8,257 万 8 千円（123.2%）、未払費用が 3,710 万 1 千円（398.3%）増加したためである。なお、引当金 7,360 万 3 千円の内訳は、賞与引当金 2,095 万 3 千円、修繕引当金 5,265 万円である。

繰延収益は、長期前受金 9 億 5,820 万 6 千円と長期前受金収益化累計額 2 億 2,167 万 8 千円の差引きで 7 億 3,652 万 8 千円が計上されている。

資本合計は、197 億 5,102 万円で、資本金が 161 億 7,857 万 6 千円、剰余金が 35 億 7,244 万 4 千円であり、前年度に比べ 582 万 6 千円（0.0%）増加している。

## 6 経営分析

職員の状況については、次表のとおりである。

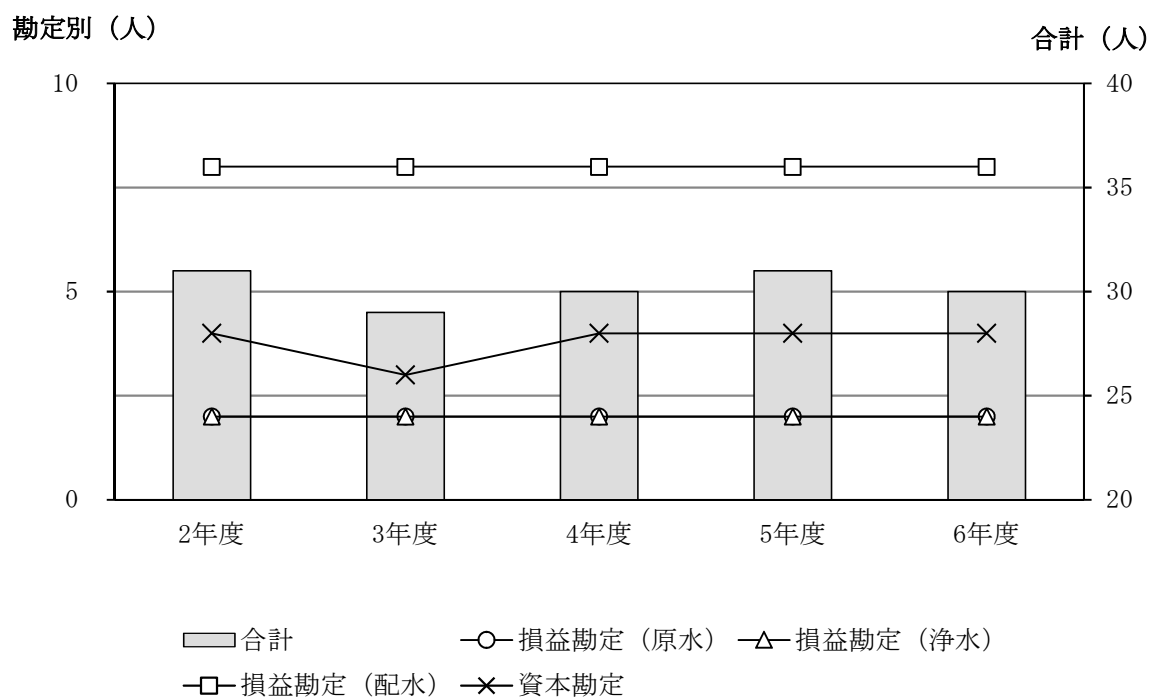
|          |     |     |     |     |     | (単位 人)                     |            |
|----------|-----|-----|-----|-----|-----|----------------------------|------------|
|          |     |     |     |     |     | 有収水量1万m <sup>3</sup> /日当たり |            |
| 区分       | 2年度 | 3年度 | 4年度 | 5年度 | 6年度 | 酒田市                        | 類似団体<br>平均 |
| 損益勘定所属職員 | 27  | 26  | 26  | 27  | 26  | 9                          | 10         |
| 原 水      | 2   | 2   | 2   | 2   | 2   | 1                          | 1          |
| 浄 水      | 2   | 2   | 2   | 2   | 2   | 1                          | 2          |
| 配 水      | 8   | 8   | 8   | 8   | 8   | 3                          | 4          |
| 資本勘定所属職員 | 4   | 3   | 4   | 4   | 4   | 1                          | —          |
| 合 計      | 31  | 29  | 30  | 31  | 30  | 11                         | —          |

(注) 類似団体平均の説明は、31 ページ記載のとおり。

(注) 令和2年度から会計年度任用職員を含む。

$$\text{有収水量1万m}^3\text{/日当たり職員数} = \frac{\text{職員数}}{\text{有収水量(1万m}^3\text{/日)}}$$

### 職員数の推移



職員 1 人当たりの生産性については、次表のとおりである。

| 指標名及び算式                                                             | 単位             | 酒田市     |         |         | 類似団体平均  | 全平均     | 全国平均    |
|---------------------------------------------------------------------|----------------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|
|                                                                     |                | 4 年度    | 5 年度    | 6 年度    |         |         |         |
| 職員 1 人当たり給水人口<br>$\frac{\text{現在給水人口}}{\text{損益勘定職員数}}$             | 人              | 3,711   | 3,509   | 3,569   | 3,088   | 2,573   | 3,388   |
| 職員 1 人当たり有収水量<br>$\frac{\text{年間総有収水量}}{\text{損益勘定職員数}}$            | m <sup>3</sup> | 407,837 | 385,756 | 387,232 | 356,624 | 287,627 | 363,204 |
| 職員 1 人当たり営業収益<br>$\frac{\text{営業収益}-\text{受託工事収益}}{\text{損益勘定職員数}}$ | 千円             | 91,624  | 86,870  | 88,708  | 72,944  | 50,919  | 66,803  |
| 職員 1 人当たり給水収益<br>$\frac{\text{給水収益}}{\text{損益勘定職員数}}$               | 千円             | 90,178  | 85,469  | 86,120  | 69,591  | 48,506  | 63,081  |

(注) 類似団体平均、全平均、全国平均の説明は、31 ページ記載のとおり。

損益勘定所属職員 1 人当たりの生産性について、職員 1 人当たりの給水人口及び有収水量が各平均に比べて高く、職員 1 人当たりの営業収益及び給水収益は各平均を上回っている。

収支比率の推移については、次表のとおりである。

| 指標名及び算式                                                                            | 単位 | 酒田市    |        |        | 類似団体平均 | 全平均    | 全国平均   |
|------------------------------------------------------------------------------------|----|--------|--------|--------|--------|--------|--------|
|                                                                                    |    | 4 年度   | 5 年度   | 6 年度   |        |        |        |
| 総収支比率<br>$\frac{\text{総収益}}{\text{総費用}} \times 100$                                | %  | 110.13 | 110.19 | 100.14 | 107.82 | 109.70 | 108.11 |
| 経常収支比率<br>$\frac{\text{経常収益}}{\text{経常費用}} \times 100$                             | %  | 110.22 | 108.20 | 105.62 | 107.69 | 110.35 | 108.24 |
| 営業収支比率<br>$\frac{\text{営業収益}-\text{受託工事収益}}{\text{営業費用}-\text{受託工事費用}} \times 100$ | %  | 103.79 | 101.72 | 98.62  | 95.09  | 99.19  | 97.75  |

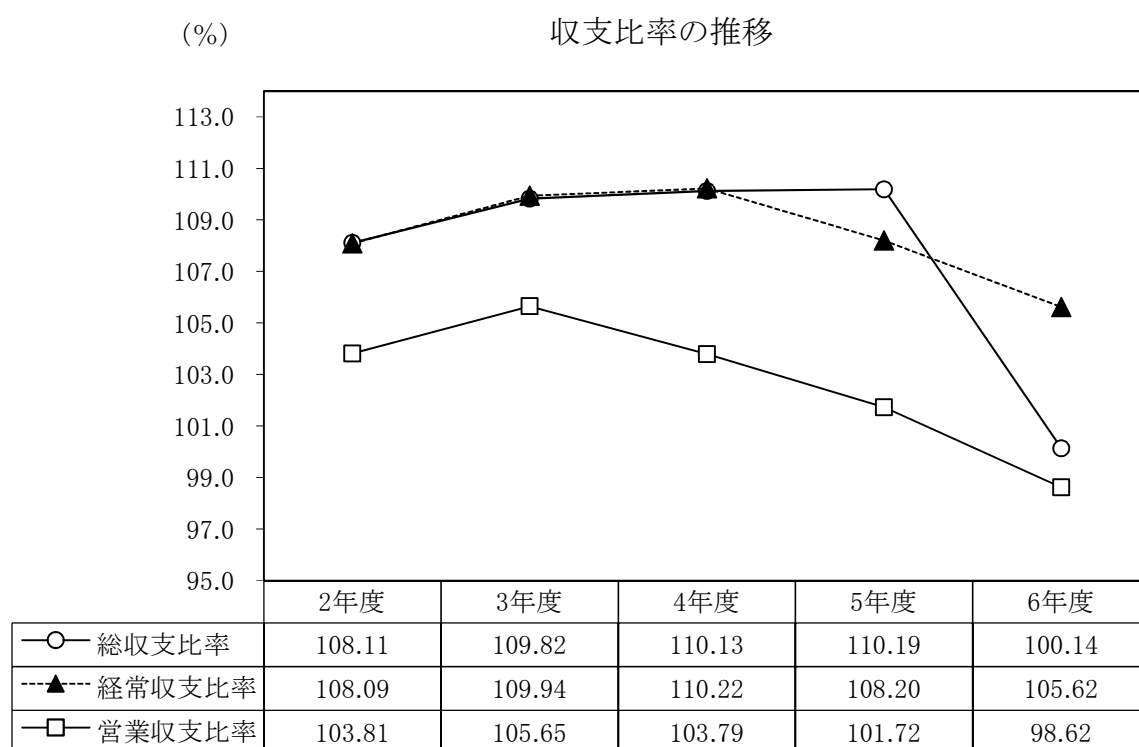
(注) 類似団体平均、全平均、全国平均の説明は、31 ページ記載のとおり。

収支比率について、当年度は全ての指標で低下した。総収支比率及び経常収支比率は各平均をすべて下回っている。

総収支比率は、収益と費用の相対的な関連を示すものであり、100%以上でなおかつ比率が高いほど良い。当年度は 100.14%である。

経常収支比率は、経常収益（営業収益＋営業外収益）と経常費用（営業費用＋営業外費用）の関連を示すものであり、100%以上でなおかつ比率が高いほど良い。当年度は 105.62%である。

営業収支比率は、業務活動の能率を示すものであり、100%以上でなおかつ比率が高いほど良い。当年度は 98.62%である。



施設の効率性については、次表のとおりである。

| 指標名及び算式                                                                  | 単位                  | 酒田市   |       |       | 類似団体平均 | 全平均   | 全国平均  |
|--------------------------------------------------------------------------|---------------------|-------|-------|-------|--------|-------|-------|
|                                                                          |                     | 4年度   | 5年度   | 6年度   |        |       |       |
| 施設利用率<br>$\frac{1 \text{ 日 平均 配 水 量 }}{1 \text{ 日 配 水 能 力 }} \times 100$ | %                   | 39.91 | 38.82 | 38.30 | 52.35  | 55.30 | 59.81 |
| 最大稼働率<br>$\frac{1 \text{ 日 最大 配 水 量 }}{1 \text{ 日 配 水 能 力 }} \times 100$ | %                   | 52.85 | 43.91 | 42.13 | 62.25  | 61.73 | 66.67 |
| 負荷率<br>$\frac{1 \text{ 日 平均 配 水 量 }}{1 \text{ 日 最大 配 水 量 }} \times 100$  | %                   | 75.52 | 88.40 | 90.91 | 84.09  | 89.60 | 89.71 |
| 有収率<br>$\frac{\text{年間総有収水量}}{\text{年間総配水量}} \times 100$                 | %                   | 92.31 | 92.96 | 91.32 | 84.44  | 88.74 | 89.42 |
| 固定資産使用効率<br>$\frac{\text{年間総配水量}}{\text{有形固定資産}}$                        | m <sup>3</sup> / 万円 | 6.10  | 6.03  | 5.98  | 4.69   | 5.91  | 6.42  |
| 配水管 100m当たりの給水人口<br>$\frac{\text{現在給水人口}}{\text{配水管延長}}$                 | 人                   | 10    | 10    | 9     | 9      | 15    | 17    |
| 配水管使用効率<br>$\frac{\text{年間総配水量}}{\text{導送配水管延長}}$                        | m <sup>3</sup> / m  | 11.00 | 10.72 | 10.55 | 11.71  | 18.18 | 19.48 |

(注) 類似団体平均、全平均、全国平均の説明は、31 ページ記載のとおり。

固定資産使用効率、配水管 100m当たりの給水人口、配水管使用効率が全国平均と比較して低い。これは点在する集落を結びながら広範囲に給水しなければならない地理的要因があるためである。

なお、当年度末の導・送・配水管の管路延長は、前年度に比べ 101m減の 1,045,031mとなっており、うち配水管の管路延長は、前年度に比べ 101m減の 988,786mとなっている。

料金については、次表のとおりである。

| 指標名及び算式                                                                                               | 単位                       | 酒田市    |        |        | 類似団体<br>平均 | 全平均    | 全国平均   |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------|--------|--------|--------|------------|--------|--------|
|                                                                                                       |                          | 4 年度   | 5 年度   | 6 年度   |            |        |        |
| 給水原価<br>$\frac{\text{経常費用}-(\text{受託工事費}+\text{材料売却原価}+\text{附帯事業費})-\text{長期前受金戻入}}{\text{年間総有収水量}}$ | 円<br>／<br>m <sup>3</sup> | 219.62 | 223.67 | 234.22 | 201.12     | 167.19 | 177.56 |
| 供給単価<br>$\frac{\text{給水収益}}{\text{年間総有収水量}}$                                                          | 円<br>／<br>m <sup>3</sup> | 221.11 | 221.56 | 222.40 | 195.14     | 168.64 | 173.68 |
| 料金回収率<br>$\frac{\text{供給単価}}{\text{給水原価}} \times 100$                                                 | %                        | 100.68 | 99.06  | 94.95  | 97.03      | 100.87 | 97.82  |
| 1 か月 10 m <sup>3</sup> 当たり<br>家庭用料金（税込）                                                               | 円                        | 1,804  | 1,804  | 1,804  | 1,775      | 1,763  | 1,610  |
| 1 か月 20 m <sup>3</sup> 当たり<br>家庭用料金（税込）                                                               | 円                        | 3,564  | 3,564  | 3,564  | 3,622      | 3,603  | 3,332  |

（注）類似団体平均、全平均、全国平均の説明は、31 ページに記載のとおり。

各平均に比べ給水原価（給水費用）、供給単価（給水収益）とも高く、1 か月 10 m<sup>3</sup>当たり家庭用料金、1 か月 20 m<sup>3</sup>当たり家庭用料金も全国平均を上回っている。

料金回収率は、各平均を下回っており、令和 5 年度から給水原価が供給単価を上回っている。

（参考）令和 6 年度酒田市水道料金

（単位 円）

|                                     | 口径 13 ミリ | 口径 20 ミリ |
|-------------------------------------|----------|----------|
| 1 か月 10 m <sup>3</sup> 当たり家庭用料金（税込） | 1,804    | 2,563    |
| 1 か月 20 m <sup>3</sup> 当たり家庭用料金（税込） | 3,564    | 4,323    |

（参考）県内 3 市水道料金（口径 20 ミリ）

（単位 円）

|                                     | 山形市   | 米沢市   | 鶴岡市   |
|-------------------------------------|-------|-------|-------|
| 1 か月 10 m <sup>3</sup> 当たり家庭用料金（税込） | 2,244 | 2,365 | 2,420 |
| 1 か月 20 m <sup>3</sup> 当たり家庭用料金（税込） | 4,345 | 3,795 | 4,510 |

繰入金の状況については、次表のとおりである。

| 指標名及び算式                                                                                 | 単位 | 酒田市   |      |       | 類似団体<br>平均 | 全平均   | 全国平均  |
|-----------------------------------------------------------------------------------------|----|-------|------|-------|------------|-------|-------|
|                                                                                         |    | 4年度   | 5年度  | 6年度   |            |       |       |
| 繰入金比率（収益的収入分）<br>$\frac{\text{基準内繰入（収益）} + \text{基準外繰入（収益）}}{\text{総収入益}} \times 100$   | %  | 4.75  | 6.86 | 7.51  | 2.96       | 2.21  | 2.33  |
| 基準内繰入金比率（収益的収入分）<br>$\frac{\text{基準内繰入金（収益）}}{\text{総収入益}} \times 100$                  | %  | 2.54  | 2.53 | 2.67  | —          | —     | —     |
| 基準外繰入金比率（収益的収入分）<br>$\frac{\text{基準外繰入金（収益）}}{\text{総収入益}} \times 100$                  | %  | 2.21  | 4.32 | 4.84  | —          | —     | —     |
| 繰入金比率（資本的収入分）<br>$\frac{\text{基準内繰入（資本）} + \text{基準外繰入（資本）}}{\text{資本的収入計}} \times 100$ | %  | 79.61 | 9.27 | 10.92 | 12.52      | 12.82 | 13.28 |
| 基準内繰入金比率（資本的収入分）<br>$\frac{\text{基準内繰入金（資本）}}{\text{資本的収入計}} \times 100$                | %  | 49.22 | 9.27 | 10.92 | —          | —     | —     |
| 基準外繰入金比率（資本的収入分）<br>$\frac{\text{基準外繰入金（資本）}}{\text{資本的収入計}} \times 100$                | %  | 30.39 | 0.00 | 0.00  | —          | —     | —     |

（注）類似団体平均、全平均、全国平均の説明は、31 ページ記載のとおり。

財政状態の分析指標の状況については、次表のとおりである。

| 指標名及び算式                                                                                                                     | 単位 | 酒田市    |        |        | 類似団体<br>平均 | 全平均    | 全国平均   |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----|--------|--------|--------|------------|--------|--------|
|                                                                                                                             |    | 4年度    | 5年度    | 6年度    |            |        |        |
| 固定資産回転率<br>$\frac{\text{営業収益} - \text{受託工事収益}}{(\text{期首固定資産} + \text{期末固定資産}) \div 2}$                                     | 回  | 0.13   | 0.13   | 0.13   | 0.08       | 0.09   | 0.10   |
| 流動比率<br>$\frac{\text{流動資産}}{\text{流動負債}} \times 100$                                                                        | %  | 640.64 | 653.57 | 555.13 | 348.74     | 230.49 | 243.36 |
| 自己資本構成比率<br>$\frac{\text{資本金} + \text{剰余金} + \text{繰延収益}}{\text{負債} + \text{資本合計}} \times 100$                              | %  | 82.63  | 84.99  | 85.68  | 70.42      | 68.44  | 73.22  |
| 固定資産対長期資本比率<br>$\frac{\text{固定資産}}{\text{固定負債} + \text{資本合計} + \text{繰延収益}} \times 100$                                     | %  | 80.02  | 79.89  | 80.41  | 90.49      | 93.47  | 92.97  |
| 企業債償還元金対減価償却費比率<br>$\frac{\text{建設改良のための企業債償還元金}}{\text{当年度減価償却費} - \text{長期前受金戻入}} \times 100$                             | %  | 56.12  | 48.12  | 44.49  | 70.12      | 76.64  | 65.63  |
| 有形固定資産減価償却率<br>$\frac{\text{有形固定資産減価償却累計額}}{\text{有形固定資産のうち償却対象資産の帳簿原価}} \times 100$                                        | %  | 59.23  | 60.17  | 61.15  | 51.87      | 52.09  | 52.02  |
| 当年度減価償却率<br>$\frac{\text{当年度減価償却費}}{\text{有形固定資産} + \text{無形固定資産} - \text{土地} - \text{建設仮勘定} + \text{当年度減価償却費}} \times 100$ | %  | 4.74   | 4.83   | 4.93   | 4.22       | 4.24   | 4.11   |

(注) 類似団体平均、全平均、全国平均の説明は、31 ページ記載のとおり。

固定資産回転率は、営業収益と設備資産に投下された資本との関係で、固定資産の利用度を表すものであり、比率が大きいほど良い。当年度も 0.13 回である。

流動比率は、1 年以内に現金化できる資産と支払わなければならない負債との対比で、支払能力を示すものであり、200%以上が望ましい。当年度は 555.13%で、前年度に比べ 98.44 ポイント低下している。

自己資本構成比率は、総資本のうち自己資本の占める割合を表すものであり、比率が大きいほど良い。50%以上が望ましい。当年度は 85.68%で、前年度に比べ 0.69 ポイント上昇している。

固定資産対長期資本比率は、固定資産が資本金と固定負債の範囲内か否かを示すものであり、100%以下が望ましい。当年度は 80.41%で、前年度に比べ 0.52 ポイント上昇している。

企業債償還元金対減価償却費比率は、建設のための企業債償還元金と当年度減価償却費の対比で、減価償却費は原則として企業債償還元金の補填財源であり、一般的には低いほうが良い。当年度は 44.49%で、前年度に比べ 3.63 ポイント低下している。

有形固定資産減価償却率は、資産の減価償却の割合を示す比率である。この比率により減価償却の進み具合や資産の経過年数を知ることができる。当年度は 61.15%で、前年度に比べ 0.98 ポイント上昇している。

当年度減価償却率は、償却対象固定資産に対する平均償却率である。当年度は 4.93%で、前年度に比べ 0.1 ポイント上昇している。

【(注) 類似団体平均、全平均、全国平均について】

- ・令和 5 年度「水道事業経営指標（総務省）」の数値である。
- ・「類似団体平均」数値は、「表流水を主とするもの、給水人口 5 万人以上 10 万人未満、有収水量密度全国平均未満」の数値を表示している。令和 5 年度の該当団体は、北海道千歳市、宮城県気仙沼市、宮城県登米市、秋田県横手市、秋田県大館市、福島県須賀川市、栃木県日光市、千葉県銚子市、埼玉県秩父広域市町村圏組合、新潟県燕・弥彦総合事務組合、岐阜県高山市、岡山県津山市、福岡県行橋市、大分県中津市の 14 団体である。
- ・「全平均」数値は、「全国計・表流水を主とするもの」の数値を表示しており、全国のうち 209 団体が該当している。
- ・「全国平均」数値は、「全国計・水源区分総合計・全平均」の数値を表示しており、全国 1,230 団体となっている。

主な経営指標の推移は、次表のとおりである。

| 区分        |                   | 単位             | 令和2年度      | 令和3年度      | 令和4年度      | 令和5年度      | 令和6年度      |
|-----------|-------------------|----------------|------------|------------|------------|------------|------------|
| 経営成績      | 水道事業収益            | 千円             | 2,636,035  | 2,568,425  | 2,590,195  | 2,593,859  | 2,589,780  |
|           | 水道事業費用            | 千円             | 2,438,388  | 2,338,816  | 2,351,873  | 2,354,067  | 2,586,187  |
|           | 営業収益              | 千円             | 2,447,555  | 2,403,242  | 2,384,879  | 2,348,397  | 2,313,436  |
|           | 営業費用              | 千円             | 2,355,986  | 2,268,287  | 2,295,285  | 2,305,712  | 2,343,874  |
|           | 営業利益又は営業損失(△)     | 千円             | 91,569     | 134,956    | 89,594     | 42,685     | △30,439    |
|           | 経常利益又は経常損失(△)     | 千円             | 197,257    | 232,171    | 240,276    | 192,813    | 134,099    |
|           | 当年度純利益又は当年度純損失(△) | 千円             | 197,647    | 229,609    | 238,322    | 239,791    | 3,593      |
| 財政状態      | 資産合計              | 千円             | 24,902,297 | 24,755,576 | 24,402,395 | 24,101,810 | 23,912,505 |
|           | 自己資本金             | 千円             | 15,859,806 | 15,917,581 | 15,956,867 | 16,050,005 | 16,178,576 |
|           | 剰余金               | 千円             | 3,155,187  | 3,338,343  | 3,545,961  | 3,695,189  | 3,572,444  |
|           | 自己資本金の割合          | %              | 63.7       | 64.3       | 65.4       | 66.6       | 67.7       |
|           | 過年度未収給水収益(税込)     | 千円             | 6,500      | 7,659      | 7,411      | 7,678      | 11,324     |
|           | 不納欠損額(税込)         | 千円             | 501        | 849        | 671        | 691        | 688        |
|           | 企業債残高             | 千円             | 3,235,763  | 2,732,498  | 2,225,079  | 1,815,471  | 1,478,599  |
|           | 企業債利息             | 千円             | 82,193     | 67,926     | 54,589     | 42,032     | 32,768     |
| キャッシュ・フロー | 業務活動              | 千円             | 1,212,576  | 1,278,962  | 1,049,396  | 872,689    | 1,196,326  |
|           | 投資活動              | 千円             | △434,515   | △569,857   | △543,288   | △585,093   | △880,688   |
|           | 財務活動              | 千円             | △561,381   | △491,943   | △498,836   | △407,034   | △334,640   |
|           | 資金期末残高            | 千円             | 5,020,702  | 5,237,864  | 5,245,136  | 5,125,697  | 5,106,696  |
| 業務量       | 給水人口              | 人              | 99,230     | 97,879     | 96,481     | 94,734     | 92,805     |
|           | 年間総配水量            | m <sup>3</sup> | 12,136,550 | 11,780,467 | 11,487,730 | 11,204,565 | 11,024,471 |
|           | 年間総有収水量           | m <sup>3</sup> | 10,934,482 | 10,704,772 | 10,603,758 | 10,415,412 | 10,068,034 |
|           | 有収率               | %              | 90.10      | 90.87      | 92.31      | 92.96      | 91.32      |
| その他       | 他会計補助金            | 千円             | 142,285    | 120,939    | 94,145     | 148,817    | 157,739    |
|           | 建設改良費(税込)         | 千円             | 522,801    | 631,535    | 603,323    | 760,603    | 977,542    |
|           | 職員数               | 人              | 31         | 29         | 30         | 31         | 30         |

(注) 自己資本金の割合は、資産合計に占める自己資本金の割合で算出した。

## 7 審査意見

当年度の決算は、事業収益が 25 億 8,978 万円で前年度比 407 万 9 千円 (0.2%) 減少し、事業費用が 25 億 8,618 万 7 千円で前年度比 2 億 3,212 万円 (9.9%) 増加した結果、純利益は 359 万 3 千円となり、前年度を 2 億 3,619 万 8 千円 (98.5%) 下回った。これは、給水収益が 6,856 万 2 千円 (3.0%) 減少したことに加え、災害による損失の皆増により特別損失が 1 億 9,552 万 7 千円 (6,343.0%) 増加したことによるものである。

業務状況では、給水人口が 92,805 人と前年度比 1,929 人 (2.0%) 減少し、給水戸数も 42,060 戸と前年度比 270 戸 (0.6%) 減少している。また、年間総配水量が前年度比 18 万  $\text{m}^3$  (1.6%)、料金収入となる有収水量が 34 万 7 千  $\text{m}^3$  (3.3%) 減少しており、有収率 (総配水量に占める有収水量の割合) は 91.32% と前年度比 1.64 ポイント低下している。一方、料金収入とならない無効水量は前年度比 12 万 6 千  $\text{m}^3$  (31.8%) 増加しており、その内の不明水量は 15 万  $\text{m}^3$  (55.8%) 増加している。令和 6 年 7 月の大雨災害により無効水量が増加した結果、有効水量を表す有効率は、95.26% と前年度比 1.21 ポイント低下している。今後も引き続き、配水管改良工事や計画的な漏水調査などを着実に続けられたい。

採算性を表す 1  $\text{m}^3$  当たりの供給単価は 222 円 40 銭、給水原価は 234 円 22 銭となった。この結果、料金回収率 (供給単価 ÷ 給水原価) は 94.95% と前年度より 4.11 ポイント低下し、前年度に引き続き原価割れが生じている。これは主に、有収水量及び給水人口の減少に伴い給水収益が減少したことに加え、退職給付費の増加に伴い経常費用が増加した影響によるものである。

当年度は、令和 6 年 7 月の大雨災害により水管橋や送配水管が被災し、一部地域において断水が発生するなど市民生活に重大な支障をきたしたが、迅速に仮復旧・本復旧作業が行われるなど尽力された。水道水の安定供給を継続するために、令和 7 年 3 月に改定した「新・酒田市水道事業基本計画」に沿って、老朽化した施設・設備の計画的な更新を今後も着実に推進されたい。

庄内圏域の水道事業の広域化については、令和 8 年度からの事業開始に向けて令和 6 年 10 月に庄内地域水道事業統合基本計画が策定され、水道事業の統合に関する基本協定が締結された。本年 10 月には企業団が設立される予定である。今後の水道事業の持続可能な事業経営に向け、着実に経営基盤の強化に取り組むことで、健全な経営を推進し、質の高いサービスが利用者に提供されることを望むものである。

## 酒 田 市 下 水 道 事 業 会 計

本市の下水道事業は、公共下水道事業、特定環境保全公共下水道事業、農業集落排水事業、簡易排水事業、特定地域生活排水処理事業、個別排水処理事業の6事業で構成されている。

## 1 決算報告書（税込み）

### （1）収益的収入及び支出

#### ア 収益的収入

当年度の収益的収入の決算額は、次表のとおりである。

（単位 円・％）

| 区分          | 予算額           | 決算額           | 予算額に比べ<br>決算額の増減 | 予算額に対する<br>決算比率 |
|-------------|---------------|---------------|------------------|-----------------|
| 1 款 下水道事業収益 | 4,628,615,000 | 4,642,771,330 | 14,156,330       | 100.3           |
| 1 項 営業収益    | 2,644,370,000 | 2,619,642,720 | △24,727,280      | 99.1            |
| 2 項 営業外収益   | 1,953,968,000 | 1,958,853,212 | 4,885,212        | 100.3           |
| 3 項 特別利益    | 30,277,000    | 64,275,398    | 33,998,398       | 212.3           |

事業収益は、予算額 46 億 2,861 万 5 千円に対し、決算額 46 億 4,277 万 1 千円で、予算額に対する決算比率は 100.3%となっている。前年度の決算額 47 億 3,731 万 3 千円と比べ 9,454 万 2 千円（2.0%）減少している。

決算額の内訳を前年度と比べると、営業収益が 5,819 万 1 千円（2.2%）、営業外収益が 5,841 万 9 千円（2.9%）減少し、特別利益が 2,206 万 7 千円（52.3%）増加している。

#### イ 収益的支出

当年度の収益的支出の決算額は、次表のとおりである。

（単位 円・％）

| 区分          | 予算額           | 決算額           | 不用額         | 予算額に対する<br>決算比率 |
|-------------|---------------|---------------|-------------|-----------------|
| 1 款 下水道事業費用 | 4,692,880,000 | 4,578,746,145 | 114,133,855 | 97.6            |
| 1 項 営業費用    | 4,181,673,000 | 4,103,363,060 | 78,309,940  | 98.1            |
| 2 項 営業外費用   | 408,034,000   | 386,047,313   | 21,986,687  | 94.6            |
| 3 項 特別損失    | 100,173,000   | 89,335,772    | 10,837,228  | 89.2            |
| 4 項 予備費     | 3,000,000     | 0             | 3,000,000   | 0.0             |

事業費用は、予算額 46 億 9,288 万円に対し、決算額 45 億 7,874 万 6 千円で、予算額に対する決算比率は 97.6%となっている。前年度の決算額 45 億 2,041 万 2 千円と比べ 5,833 万 4 千円（1.3%）増加している。

決算額の内訳を前年度と比べると、営業費用が 4,600 万 7 千円（1.1%）、特別損失が 8,436

万 2 千円（1,696.3%）増加し、営業外費用が 7,203 万 5 千円（15.7%）減少している。  
 収益的収入額から収益的支出額を差し引いた額は、6,402 万 5 千円である。

## （２）資本的収入及び支出

### ア 資本的収入

当年度の資本的収入の決算額は、次表のとおりである。

（単位 円・％）

| 区分        | 予算額           | 決算額         | 予算額に比べ<br>決算額の増減 | 予算額に対する<br>決算比率 |
|-----------|---------------|-------------|------------------|-----------------|
| 1 款 資本的収入 | 1,265,194,000 | 664,011,573 | △601,182,427     | 52.5            |
| 1 項 企業債   | 751,900,000   | 423,200,000 | △328,700,000     | 56.3            |
| 2 項 補助金   | 510,274,000   | 235,269,583 | △275,004,417     | 46.1            |
| 3 項 負担金   | 3,020,000     | 5,541,990   | 2,521,990        | 183.5           |

資本的収入は、予算額 12 億 6,519 万 4 千円に対し、決算額 6 億 6,401 万 2 千円で、予算額に対する決算比率は 52.5%となっている。前年度の決算額 4 億 5,514 万 4 千円と比べ 2 億 886 万 7 千円（45.9%）増加している。

これは主に、企業債が 1 億 7,910 万円（73.4%）、補助金が 3,949 万 3 千円（20.2%）増加したためである。

決算額のうち主なものは、建設改良費等の財源に充てるための特定環境保全公共下水道事業債 2 億 2,040 万円、公共下水道事業債 1 億 7,780 万円、国庫補助金 1 億 3,798 万 7 千円、一般会計からの他会計補助金 9,728 万 3 千円である。

### イ 資本的支出

当年度の資本的支出の決算額は、次表のとおりである。

（単位 円・％）

| 区分         | 予算額           | 決算額           | 地方公営企業法<br>第 26 条の規定<br>による繰越額 | 不用額         | 予算額に対する<br>決算比率 |
|------------|---------------|---------------|--------------------------------|-------------|-----------------|
| 1 款 資本的支出  | 3,352,206,500 | 2,736,232,866 | 377,128,400                    | 238,845,234 | 81.6            |
| 1 項 建設改良費  | 1,233,913,500 | 619,703,317   | 377,128,400                    | 237,081,783 | 50.2            |
| 2 項 企業債償還金 | 2,118,293,000 | 2,116,529,549 | 0                              | 1,763,451   | 99.9            |

資本的支出は、予算額 33 億 5,220 万 7 千円に対し、決算額 27 億 3,623 万 3 千円で、予算額に対する決算比率は 81.6%となっている。前年度の決算額 26 億 2,168 万 2 千円と比べ 1 億 1,455 万 1 千円（4.4%）増加している。

決算額の内訳を前年度と比べると、建設改良費が 2 億 3,519 万 4 千円（61.2%）増加し、企業債償還金が 1 億 2,064 万 3 千円（5.4%）減少している。

#### ウ 資本的収支不足の補填

資本的収入額が資本的支出額に不足する額 20 億 7,222 万 1 千円は、当年度分消費税及び地方消費税資本的収支調整額 5,217 万 2 千円、過年度分損益勘定留保資金 12 億 7,103 万 1 千円、当年度分損益勘定留保資金 5 億 4,941 万 8 千円、減債積立金 1 億 9,960 万円で補填されている。

資本的収支の実績は、次表のとおりである。

（単位 円）

| 区分                         | 令和 4 年度       | 令和 5 年度       | 令和 6 年度       |
|----------------------------|---------------|---------------|---------------|
| 企業債                        | 132,900,000   | 244,100,000   | 423,200,000   |
| 補助金                        | 131,932,128   | 195,776,950   | 235,269,583   |
| 負担金                        | 29,080,075    | 15,267,300    | 5,541,990     |
| 資本的収入合計（A）                 | 293,912,203   | 455,144,250   | 664,011,573   |
| 建設改良費                      | 186,396,408   | 384,509,104   | 619,703,317   |
| 企業債償還金                     | 2,341,436,231 | 2,237,173,041 | 2,116,529,549 |
| 資本的支出合計（B）                 | 2,527,832,639 | 2,621,682,145 | 2,736,232,866 |
| 要補填額（B）－（A）                | 2,233,920,436 | 2,166,537,895 | 2,072,221,293 |
| 当年度分消費税及び地方消費税<br>資本的収支調整額 | 14,695,473    | 31,348,487    | 52,172,415    |
| 過年度分損益勘定留保資金               | 1,222,788,203 | 1,202,190,272 | 1,271,031,055 |
| 当年度分損益勘定留保資金               | 907,436,760   | 829,999,136   | 549,417,823   |
| 減債積立金                      | 89,000,000    | 103,000,000   | 199,600,000   |
| 補填財源合計                     | 2,233,920,436 | 2,166,537,895 | 2,072,221,293 |

## 2 業務の状況

### (1) 汚水処理の状況

当年度の全事業合計の処理区域内人口は 90,657 人で、前年度に比べ 1,824 人(2.0%)減少している。普及率は 97.4%となっている。

当年度の全事業合計の水洗化人口は 83,217 人で、前年度に比べ 1,336 人(1.6%)減少している。水洗化率は 91.8%となり、0.4 ポイント増加している。

当年度の全事業合計の有収水量は 845 万 9,893 m<sup>3</sup>で、前年度に比べ 21 万 5,155 m<sup>3</sup>(2.5%)減少している。有収率は 63.8%となり、0.8 ポイント減少している。

事業別処理状況は、次表のとおりである。

#### 全事業

| 区分                           | 令和4年度      | 令和5年度      | 令和6年度      | 対前年度<br>増減 | 対前年度<br>増減率(%) |
|------------------------------|------------|------------|------------|------------|----------------|
| 行政区域内人口 A (人)                | 96,777     | 95,031     | 93,102     | △1,929     | △2.0           |
| 処理区域内人口 B (人)                | 94,128     | 92,481     | 90,657     | △1,824     | △2.0           |
| 普及率 B/A (%)                  | 97.3       | 97.3       | 97.4       | 0.1        | —              |
| 水洗化人口 C (人)                  | 85,510     | 84,553     | 83,217     | △1,336     | △1.6           |
| 水洗化率 C/B (%)                 | 90.8       | 91.4       | 91.8       | 0.4        | —              |
| 総処理水量 D (m <sup>3</sup> )    | 13,401,626 | 13,423,001 | 13,265,767 | △157,234   | △1.2           |
| 1日平均処理水量 (m <sup>3</sup> /日) | 36,717     | 36,675     | 36,345     | △330       | △0.9           |
| 有収水量 E (m <sup>3</sup> )     | 8,781,025  | 8,675,048  | 8,459,893  | △215,155   | △2.5           |
| 1日平均有収水量 (m <sup>3</sup> /日) | 24,058     | 23,702     | 23,178     | △524       | △2.2           |
| 有収率 E/D (%)                  | 65.5       | 64.6       | 63.8       | △0.8       | —              |

公共下水道事業

| 区分            | 令和4年度      | 令和5年度      | 令和6年度      | 対前年度<br>増減 | 対前年度<br>増減率(%) |
|---------------|------------|------------|------------|------------|----------------|
| 行政区域内人口 A (人) | 96,777     | 95,031     | 93,102     | △1,929     | △2.0           |
| 処理区域内人口 B (人) | 73,783     | 72,619     | 71,353     | △1,266     | △1.7           |
| 普及率 B/A (%)   | 76.2       | 76.4       | 76.6       | 0.2        | —              |
| 水洗化人口 C (人)   | 67,243     | 66,596     | 65,713     | △883       | △1.3           |
| 水洗化率 C/B (%)  | 91.1       | 91.7       | 92.1       | 0.4        | —              |
| 総処理水量 D (m³)  | 11,645,283 | 11,698,031 | 11,573,230 | △124,801   | △1.1           |
| 有収水量 E (m³)   | 7,101,262  | 7,034,693  | 6,874,896  | △159,797   | △2.3           |
| 有収率 E/D (%)   | 61.0       | 60.1       | 59.4       | △0.7       | —              |

特定環境保全公共下水道事業

| 区分            | 令和4年度   | 令和5年度   | 令和6年度   | 対前年度<br>増減 | 対前年度<br>増減率(%) |
|---------------|---------|---------|---------|------------|----------------|
| 行政区域内人口 A (人) | 96,777  | 95,031  | 93,102  | △1,929     | △2.0           |
| 処理区域内人口 B (人) | 3,757   | 3,678   | 3,543   | △135       | △3.7           |
| 普及率 B/A (%)   | 3.9     | 3.9     | 3.8     | △0.1       | —              |
| 水洗化人口 C (人)   | 3,281   | 3,227   | 3,123   | △104       | △3.2           |
| 水洗化率 C/B (%)  | 87.3    | 87.7    | 88.1    | 0.4        | —              |
| 総処理水量 D (m³)  | 297,190 | 294,155 | 288,506 | △5,649     | △1.9           |
| 有収水量 E (m³)   | 314,164 | 305,172 | 299,425 | △5,747     | △1.9           |
| 有収率 E/D (%)   | 105.7   | 103.7   | 103.8   | 0.1        | —              |

農業集落排水事業

| 区分            | 令和4年度     | 令和5年度     | 令和6年度     | 対前年度<br>増減 | 対前年度<br>増減率(%) |
|---------------|-----------|-----------|-----------|------------|----------------|
| 行政区域内人口 A (人) | 96,777    | 95,031    | 93,102    | △1,929     | △2.0           |
| 処理区域内人口 B (人) | 14,577    | 14,214    | 13,831    | △383       | △2.7           |
| 普及率 B/A (%)   | 15.1      | 15.0      | 14.9      | △0.1       | —              |
| 水洗化人口 C (人)   | 13,027    | 12,788    | 12,524    | △264       | △2.1           |
| 水洗化率 C/B (%)  | 89.4      | 90.0      | 90.6      | 0.6        | —              |
| 総処理水量 D (m³)  | 1,270,483 | 1,247,555 | 1,229,977 | △17,578    | △1.4           |
| 有収水量 E (m³)   | 1,176,929 | 1,151,923 | 1,111,518 | △40,405    | △3.5           |
| 有収率 E/D (%)   | 92.6      | 92.3      | 90.4      | △1.9       | —              |

簡易排水事業

| 区分            | 令和4年度  | 令和5年度  | 令和6年度  | 対前年度<br>増減 | 対前年度<br>増減率(%) |
|---------------|--------|--------|--------|------------|----------------|
| 行政区域内人口 A (人) | 96,777 | 95,031 | 93,102 | △1,929     | △2.0           |
| 処理区域内人口 B (人) | 6      | 4      | 4      | 0          | 0.0            |
| 普及率 B/A (%)   | 0.0    | 0.0    | 0.0    | 0.0        | —              |
| 水洗化人口 C (人)   | 4      | 2      | 2      | 0          | 0.0            |
| 水洗化率 C/B (%)  | 66.7   | 50.0   | 50.0   | 0.0        | —              |
| 総処理水量 D (m³)  | 417    | 361    | 217    | △144       | △39.9          |
| 有収水量 E (m³)   | 417    | 361    | 217    | △144       | △39.9          |
| 有収率 E/D (%)   | 100.0  | 100.0  | 100.0  | 0.0        | —              |

特定地域生活排水処理事業

| 区分            | 令和4年度   | 令和5年度   | 令和6年度   | 対前年度<br>増減 | 対前年度<br>増減率(%) |
|---------------|---------|---------|---------|------------|----------------|
| 行政区域内人口 A (人) | 96,777  | 95,031  | 93,102  | △1,929     | △2.0           |
| 処理区域内人口 B (人) | 1,832   | 1,792   | 1,767   | △25        | △1.4           |
| 普及率 B/A (%)   | 1.9     | 1.9     | 1.9     | 0.0        | —              |
| 水洗化人口 C (人)   | 1,782   | 1,746   | 1,696   | △50        | △2.9           |
| 水洗化率 C/B (%)  | 97.3    | 97.4    | 96.0    | △1.4       | —              |
| 総処理水量 D (m³)  | 173,055 | 167,357 | 159,807 | △7,550     | △4.5           |
| 有収水量 E (m³)   | 173,055 | 167,357 | 159,807 | △7,550     | △4.5           |
| 有収率 E/D (%)   | 100.0   | 100.0   | 100.0   | 0.0        | —              |

個別排水処理事業

| 区分            | 令和4年度  | 令和5年度  | 令和6年度  | 対前年度<br>増減 | 対前年度<br>増減率(%) |
|---------------|--------|--------|--------|------------|----------------|
| 行政区域内人口 A (人) | 96,777 | 95,031 | 93,102 | △1,929     | △2.0           |
| 処理区域内人口 B (人) | 173    | 174    | 159    | △15        | △8.6           |
| 普及率 B/A (%)   | 0.2    | 0.2    | 0.2    | 0.0        | —              |
| 水洗化人口 C (人)   | 173    | 174    | 159    | △15        | △8.6           |
| 水洗化率 C/B (%)  | 100.0  | 100.0  | 100.0  | 0.0        | —              |
| 総処理水量 D (m³)  | 15,198 | 15,542 | 14,030 | △1,512     | △9.7           |
| 有収水量 E (m³)   | 15,198 | 15,542 | 14,030 | △1,512     | △9.7           |
| 有収率 E/D (%)   | 100.0  | 100.0  | 100.0  | 0.0        | —              |

(2) 施設の利用状況

施設の利用状況の推移については、次表のとおりである。

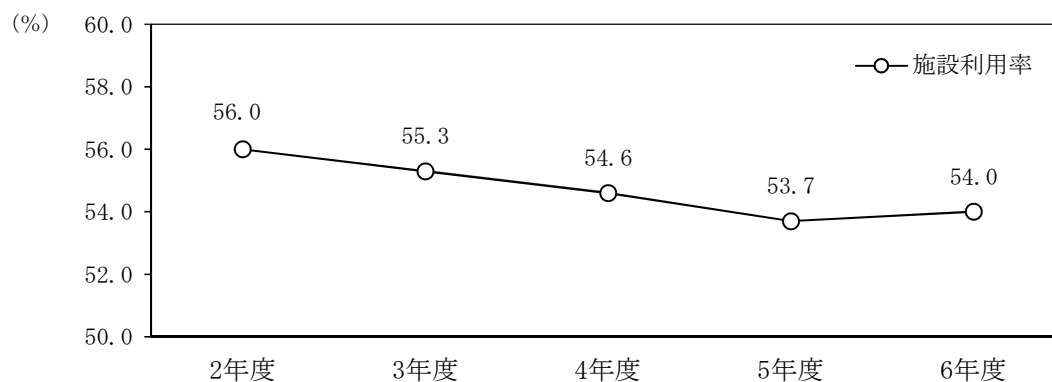
(単位  $\text{m}^3/\text{日} \cdot \%$ )

| 区分                         | 令和4年度  | 令和5年度  | 令和6年度  | 対前年度増減 |
|----------------------------|--------|--------|--------|--------|
| 晴天時現在処理能力 (A)              | 48,480 | 48,480 | 48,480 | 0      |
| 晴天時平均処理水量 (B)              | 26,491 | 26,016 | 26,172 | 156    |
| 施設利用率 $(B)/(A) \times 100$ | 54.6   | 53.7   | 54.0   | 0.3    |

施設利用率は54.0%で、前年度に比べて0.3ポイント上昇した。これは晴天時平均処理水量が0.6%増加したことによるものである。

※施設利用率は、施設・設備が1日に対応可能な処理能力に対する、1日平均処理水量の割合であり、施設の利用状況や適正規模を判断する指標である。比率が高いほど良いとされている。

施設利用率の推移



### 3 損益計算書

#### (1) 収益

収益比較については、次表のとおりである。

(単位 円・%)

| 区分            | 令和5年度         |       | 令和6年度         |       | 対前年度比較      |         |
|---------------|---------------|-------|---------------|-------|-------------|---------|
|               | 金額            | 構成比率  | 金額            | 構成比率  | 増減額         | 増減率     |
| 営業収益          | 2,499,602,346 | 54.8  | 2,445,731,920 | 54.7  | △53,870,426 | △2.2    |
| 下水道等<br>使用料   | 1,782,767,064 | 39.1  | 1,739,655,501 | 38.9  | △43,111,563 | △2.4    |
| 受託工事<br>収益    | 941,212       | 0.0   | —             | —     | △941,212    | 皆減      |
| その他の<br>営業収益  | 715,894,070   | 15.7  | 706,076,419   | 15.8  | △9,817,651  | △1.4    |
| 営業外収益         | 2,016,181,183 | 44.2  | 1,957,837,000 | 43.8  | △58,344,183 | △2.9    |
| 受取利息<br>及び配当金 | 38,192        | 0.0   | 912,009       | 0.0   | 873,817     | 2,288.0 |
| 国庫<br>補助金     | 5,842,100     | 0.1   | 13,255,000    | 0.3   | 7,412,900   | 126.9   |
| 他会計<br>補助金    | 1,472,108,050 | 32.3  | 1,420,297,408 | 31.8  | △51,810,642 | △3.5    |
| 長期前受<br>金戻入   | 524,096,697   | 11.5  | 511,924,040   | 11.5  | △12,172,657 | △2.3    |
| 雑収益           | 14,096,144    | 0.3   | 11,448,543    | 0.3   | △2,647,601  | △18.8   |
| 特別利益          | 42,208,017    | 0.9   | 64,275,398    | 1.4   | 22,067,381  | 52.3    |
| 過年度損<br>益修正益  | 208,017       | 0.0   | 603,924       | 0.0   | 395,907     | 190.3   |
| その他<br>特別利益   | 42,000,000    | 0.9   | 63,671,474    | 1.4   | 21,671,474  | 51.6    |
| 事業収益          | 4,557,991,546 | 100.0 | 4,467,844,318 | 100.0 | △90,147,228 | △2.0    |

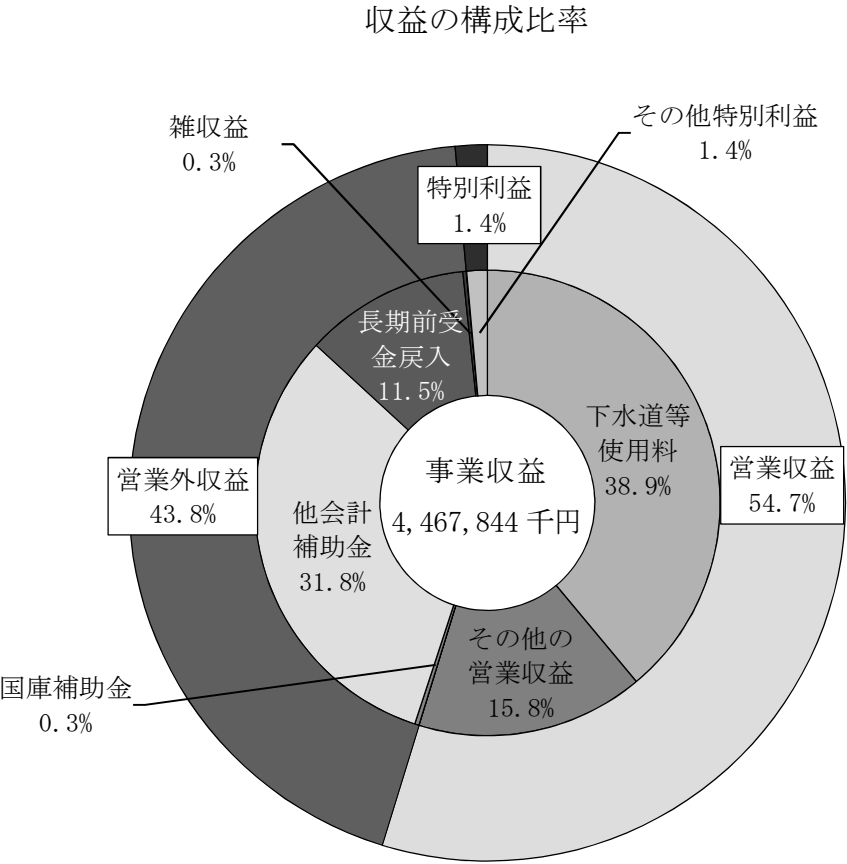
事業収益は44億6,784万4千円で、前年度に比べ9,014万7千円(2.0%)減少している。これは、特別利益が2,206万7千円(52.3%)増加したものの、営業収益が5,387万円(2.2%)、営業外収益が5,834万4千円(2.9%)減少したためである。

営業収益が減少した主な要因は、下水道等使用料が4,311万2千円(2.4%)減少したためである。

営業外収益が減少した主な要因は、他会計補助金が5,181万1千円(3.5%)、長期前受金戻入が1,217万3千円(2.3%)減少したためである。

特別利益が増加した主な要因は、令和6年7月の大雨災害による災害復旧国庫補助金や被災した松山浄化センターの災害共済金の皆増により、その他特別利益が2,167万1千円(51.6%)増加したためである。

令和6年度の収益の構成比率は、次のとおりである。



(2) 費用

費用比較については、次表のとおりである。

(単位 円・%)

| 区分                | 令和5年度         |       | 令和6年度         |       | 対前年度比較      |         |
|-------------------|---------------|-------|---------------|-------|-------------|---------|
|                   | 金額            | 構成比率  | 金額            | 構成比率  | 増減額         | 増減率     |
| 営業費用              | 3,941,452,859 | 90.4  | 3,980,785,841 | 89.7  | 39,332,982  | 1.0     |
| 管渠費               | 153,472,768   | 3.5   | 156,504,476   | 3.5   | 3,031,708   | 2.0     |
| ポンプ場費             | 94,887,463    | 2.2   | 89,040,507    | 2.0   | △5,846,956  | △6.2    |
| 処理場費              | 733,593,863   | 16.8  | 785,022,819   | 17.7  | 51,428,956  | 7.0     |
| 流域下水道維持<br>管理負担金  | 128,939,147   | 3.0   | 138,466,344   | 3.1   | 9,527,197   | 7.4     |
| 受託工事費             | 1,180,000     | 0.0   | —             | —     | △1,180,000  | 皆減      |
| 業務費               | 59,422,845    | 1.4   | 59,975,150    | 1.4   | 552,305     | 0.9     |
| 総係費               | 107,556,811   | 2.5   | 137,546,680   | 3.1   | 29,989,869  | 27.9    |
| 減価償却費             | 2,662,202,613 | 61.1  | 2,599,868,235 | 58.6  | △62,334,378 | △2.3    |
| 資産減耗費             | 197,349       | 0.0   | 14,361,630    | 0.3   | 14,164,281  | 7,177.3 |
| 営業外費用             | 413,051,468   | 9.5   | 377,334,432   | 8.5   | △35,717,036 | △8.6    |
| 支払利息及び<br>企業債取扱諸費 | 405,187,050   | 9.3   | 361,815,013   | 8.1   | △43,372,037 | △10.7   |
| 雑支出               | 7,864,418     | 0.2   | 15,519,419    | 0.3   | 7,655,001   | 97.3    |
| 特別損失              | 4,521,297     | 0.1   | 81,772,295    | 1.8   | 77,250,998  | 1,708.6 |
| 過年度損益修正損          | 4,521,297     | 0.1   | 533,765       | 0.0   | △3,987,532  | △88.2   |
| 災害による損失           | —             | —     | 81,238,530    | 1.8   | 81,238,530  | 皆増      |
| 事業費用              | 4,359,025,624 | 100.0 | 4,439,892,568 | 100.0 | 80,866,944  | 1.9     |

事業費用は44億3,989万3千円で、前年度に比べ8,086万7千円(1.9%)増加している。これは、営業外費用が3,571万7千円(8.6%)減少したものの、営業費用が3,933万3千円(1.0%)、特別損失が7,725万1千円(1,708.6%)増加したためである。

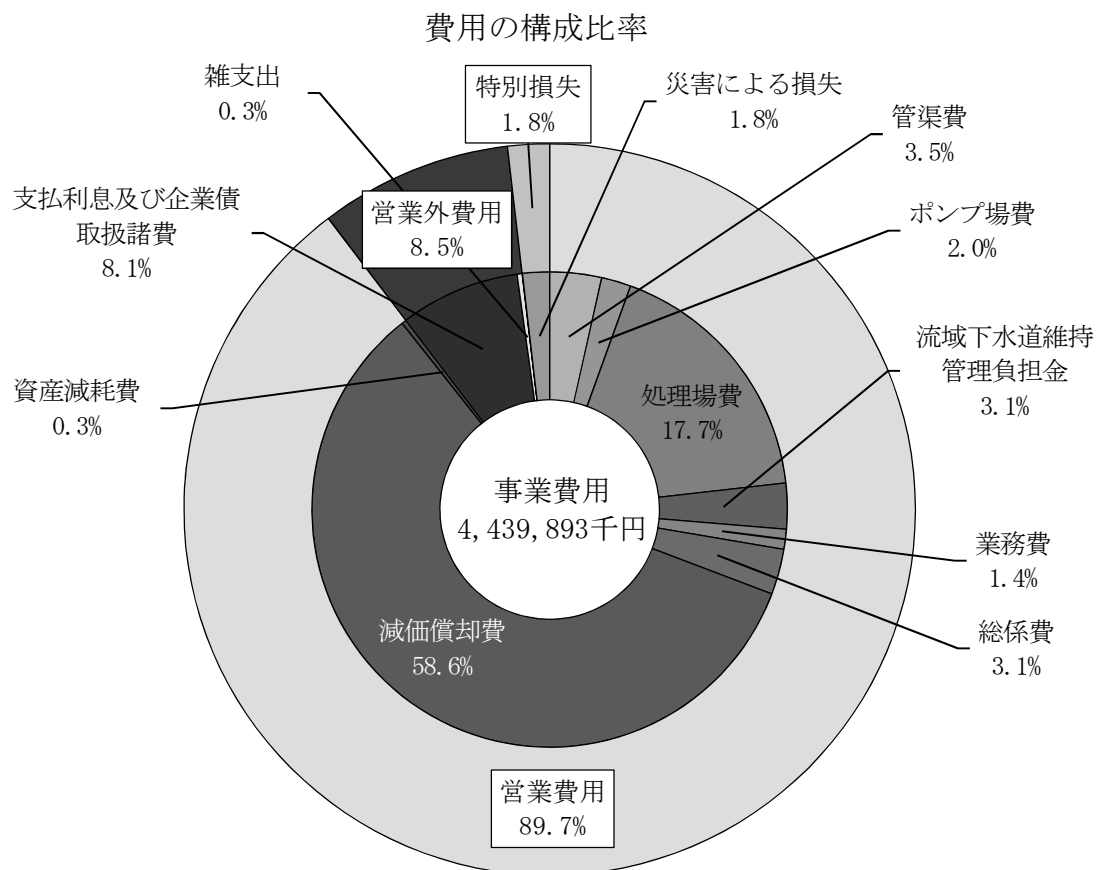
営業費用が増加した主な要因は、減価償却費が6,233万4千円(2.3%)減少したものの、処理場費が修繕費の増加により5,142万9千円(7.0%)、総係費が人件費と委託料の増加により2,999万円(27.9%)、資産減耗費が1,416万4千円(7,177.3%)増加したためである。

営業外費用が減少した主な要因は、支払利息及び企業債取扱諸費が企業債残高の減少により4,337万2千円(10.7%)減少したためである。

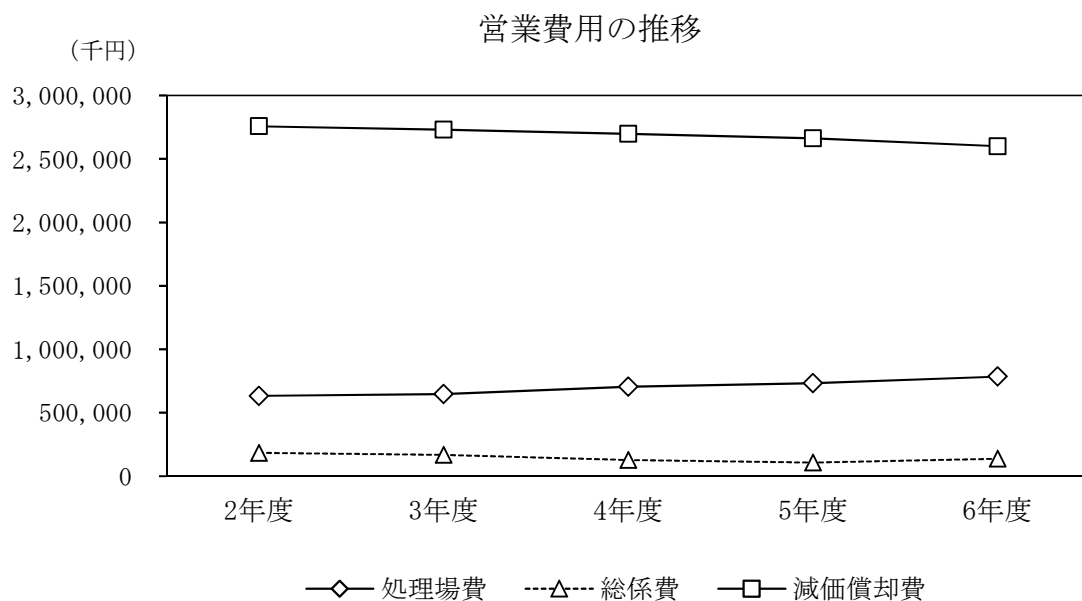
特別損失が増加した主な要因は、令和6年7月の大雨災害に伴う応急復旧工事や被災し

た固定資産の除却等により、災害による損失が8,123万9千円皆増したためである。

令和6年度の費用の構成比率は、次のとおりである。



主な営業費用の推移については、次のとおりである。



事業費用節別比較については、次表のとおりである。

(単位 円・%)

| 区分      | 令和 5 年度       |       | 令和 6 年度       |       | 対前年度比較      |         |
|---------|---------------|-------|---------------|-------|-------------|---------|
|         | 金額            | 構成比率  | 金額            | 構成比率  | 増減額         | 増減率     |
| 営 業 費 用 | 3,941,452,859 | 90.4  | 3,980,785,841 | 89.7  | 39,332,982  | 1.0     |
| 人 件 費   | 85,896,973    | 2.0   | 104,925,331   | 2.4   | 19,028,358  | 22.2    |
| 委 託 料   | 962,009,111   | 22.1  | 987,943,065   | 22.3  | 25,933,954  | 2.7     |
| 修 繕 費   | 50,844,304    | 1.2   | 82,553,336    | 1.9   | 31,709,032  | 62.4    |
| 負 担 金   | 157,686,218   | 3.6   | 169,639,802   | 3.8   | 11,953,584  | 7.6     |
| 減価償却費   | 2,662,202,613 | 61.1  | 2,599,868,235 | 58.6  | △62,334,378 | △2.3    |
| 資産減耗費   | 197,349       | 0.0   | 14,361,630    | 0.3   | 14,164,281  | 7,177.3 |
| そ の 他   | 22,616,291    | 0.5   | 21,494,442    | 0.5   | △1,121,849  | △5.0    |
| 営業外費用   | 413,051,468   | 9.5   | 377,334,432   | 8.5   | △35,717,036 | △8.6    |
| 特 別 損 失 | 4,521,297     | 0.1   | 81,772,295    | 1.8   | 77,250,998  | 1,708.6 |
| 事 業 費 用 | 4,359,025,624 | 100.0 | 4,439,892,568 | 100.0 | 80,866,944  | 1.9     |

人件費は、前年度に比べ 1,902 万 8 千円 (22.2%) 増加しているが、この主な要因は、令和 6 年 7 月の大雨災害対応に伴う時間外勤務手当が増加するなどしたためである。

委託料は、前年度に比べ 2,593 万 4 千円 (2.7%) 増加しているが、この主な要因は、公共下水道雨水出水浸水想定区域図作成業務委託料が 1,410 万円皆増したためである。

修繕費は、前年度に比べ 3,170 万 9 千円 (62.4%) 増加しているが、この主な要因は、クリーンセンター汚泥貯留槽補修工事等により処理場費の修繕費が 4,107 万 5 千円 (979.1%) 増加したためである。

負担金は、前年度に比べ 1,195 万 4 千円 (7.6%) 増加しているが、流域下水道維持管理負担金が 952 万 7 千円 (7.4%)、総係費の負担金が 242 万 5 千円 (9.0%) 増加したためである。

減価償却費は、前年度に比べ 6,233 万 4 千円 (2.3%) 減少しているが、この主な要因は、機械及び装置の減価償却費が 5,299 万 6 千円 (10.4%)、構築物の減価償却費が 565 万 8 千円 (0.3%) 減少したためである。

資産減耗費は、前年度に比べ 1,416 万 4 千円 (7,177.3%) 増加しているが、この主な要因は、浜田中継ポンプ場監視制御装置更新に伴い同ポンプ場の除却費を計上したためである。

### (3) 損益

損益計算比較については、次表のとおりである。

(単位 円・%)

| 区分                                | 令和5年度          | 令和6年度          | 対前年度比較       |         |
|-----------------------------------|----------------|----------------|--------------|---------|
|                                   |                |                | 増減額          | 増減率     |
| 営業収益 (ア)                          | 2,499,602,346  | 2,445,731,920  | △53,870,426  | △2.2    |
| 営業費用 (イ)                          | 3,941,452,859  | 3,980,785,841  | 39,332,982   | 1.0     |
| 営業利益又は<br>営業損失 (△) (ウ)<br>(ア)－(イ) | △1,441,850,513 | △1,535,053,921 | △93,203,408  | 6.5     |
| 営業外収益 (エ)                         | 2,016,181,183  | 1,957,837,000  | △58,344,183  | △2.9    |
| 営業外費用 (オ)                         | 413,051,468    | 377,334,432    | △35,717,036  | △8.6    |
| 経常利益 (カ)<br>(ウ)＋(エ)－(オ)           | 161,279,202    | 45,448,647     | △115,830,555 | △71.8   |
| 特別利益 (キ)                          | 42,208,017     | 64,275,398     | 22,067,381   | 52.3    |
| 過年度損益修正益                          | 208,017        | 603,924        | 395,907      | 190.3   |
| その他特別利益                           | 42,000,000     | 63,671,474     | 21,671,474   | 51.6    |
| 特別損失 (ク)                          | 4,521,297      | 81,772,295     | 77,250,998   | 1,708.6 |
| 過年度損益修正損                          | 4,521,297      | 533,765        | △3,987,532   | △88.2   |
| 災害による損失                           | —              | 81,238,530     | 81,238,530   | 皆増      |
| 当年度純利益 (ケ)<br>(カ)＋(キ)－(ク)         | 198,965,922    | 27,951,750     | △171,014,172 | △86.0   |
| 前年度繰越利益剰余金 (コ)                    | 974,950        | 340,872        | △634,078     | △65.0   |
| その他未処分利益剰余金<br>変動額 (サ)            | 103,000,000    | 199,600,000    | 96,600,000   | 93.8    |
| 当年度未処分利益剰余金<br>(ケ)＋(コ)＋(サ)        | 302,940,872    | 227,892,622    | △75,048,250  | △24.8   |

|                        |               |               |              |       |
|------------------------|---------------|---------------|--------------|-------|
| 経常収益<br>(ア)＋(エ)        | 4,515,783,529 | 4,403,568,920 | △112,214,609 | △2.5  |
| 経常費用<br>(イ)＋(オ)        | 4,354,504,327 | 4,358,120,273 | 3,615,946    | 0.1   |
| 経常利益又は<br>経常損失 (△) (カ) | 161,279,202   | 45,448,647    | △115,830,555 | △71.8 |

当年度の営業損失は15億3,505万4千円となっており、前年度に比べ9,320万3千円(6.5%)増加している。経常利益は4,544万9千円で前年度に比べ1億1,583万1千円(71.8%)減少している。特別損益を加えた当年度純利益は2,795万2千円で、前年度に比べ1億7,101万4千円(86.0%)減少している。

当年度純利益に前年度繰越利益剰余金34万1千円とその他未処分利益剰余金変動額1億9,960万円を加算すると、当年度未処分利益剰余金は2億2,789万3千円となり、前年度に比べ7,504万8千円(24.8%)減少している。

使用料単価、汚水処理原価等については、次表のとおりである。

| 区分                         | 単位             | 令和4年度     | 令和5年度     | 令和6年度     | 対前年度増減   |
|----------------------------|----------------|-----------|-----------|-----------|----------|
| 1 m <sup>3</sup> 当たり使用料単価  | 円              | 205.40    | 205.51    | 205.64    | 0.13     |
| 1 m <sup>3</sup> 当たり汚水処理原価 | 円              | 208.71    | 209.55    | 211.61    | 2.06     |
| 経費回収率                      | %              | 98.41     | 98.07     | 97.18     | △0.89    |
| 有収水量                       | m <sup>3</sup> | 8,781,025 | 8,675,048 | 8,459,893 | △215,155 |
| 有収率                        | %              | 65.52     | 64.63     | 63.77     | △0.86    |
| 下水道等使用料収益                  | 千円             | 1,803,596 | 1,782,767 | 1,739,656 | △43,111  |
| 汚水処理費用                     | 千円             | 1,832,675 | 1,817,846 | 1,790,185 | △27,661  |

使用料単価（収益）は205円64銭で、前年度より13銭高くなっている。

汚水処理原価（費用）は211円61銭で、前年度より2円6銭高くなっている。

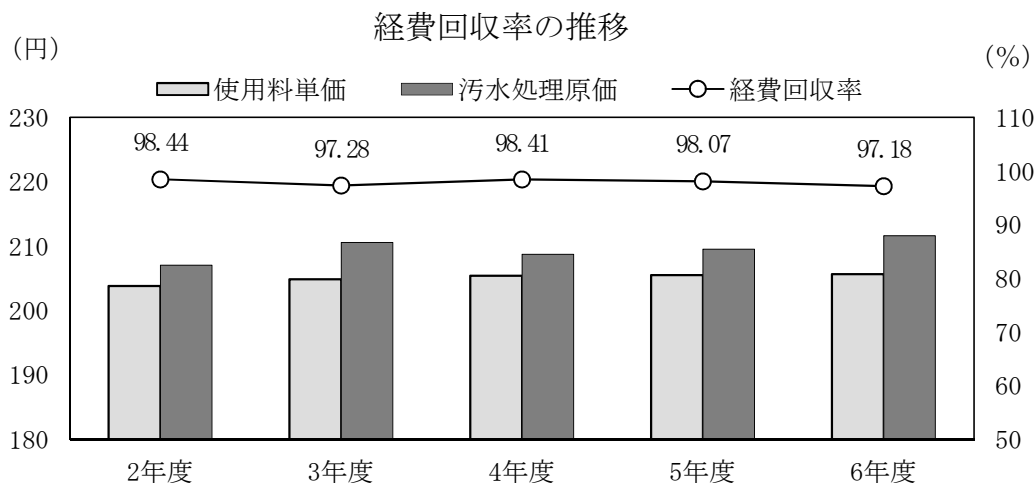
使用料単価が汚水処理原価を5円97銭下回り、経費回収率は97.18%となっている。

※使用料単価は、有収水量1 m<sup>3</sup>当たりの使用料収益である。

※汚水処理原価は、有収水量1 m<sup>3</sup>当たりの汚水処理に要した費用（公費負担分を除く）である。

※経費回収率は、使用料単価と汚水処理原価の関係を見るものであり、経費回収率が100%を下回っている場合、汚水処理に係る費用が下水道等使用料収入以外の収入により賄われていることを意味する。

$$\text{経費回収率} = \frac{\text{使用料単価}}{\text{汚水処理原価}}$$

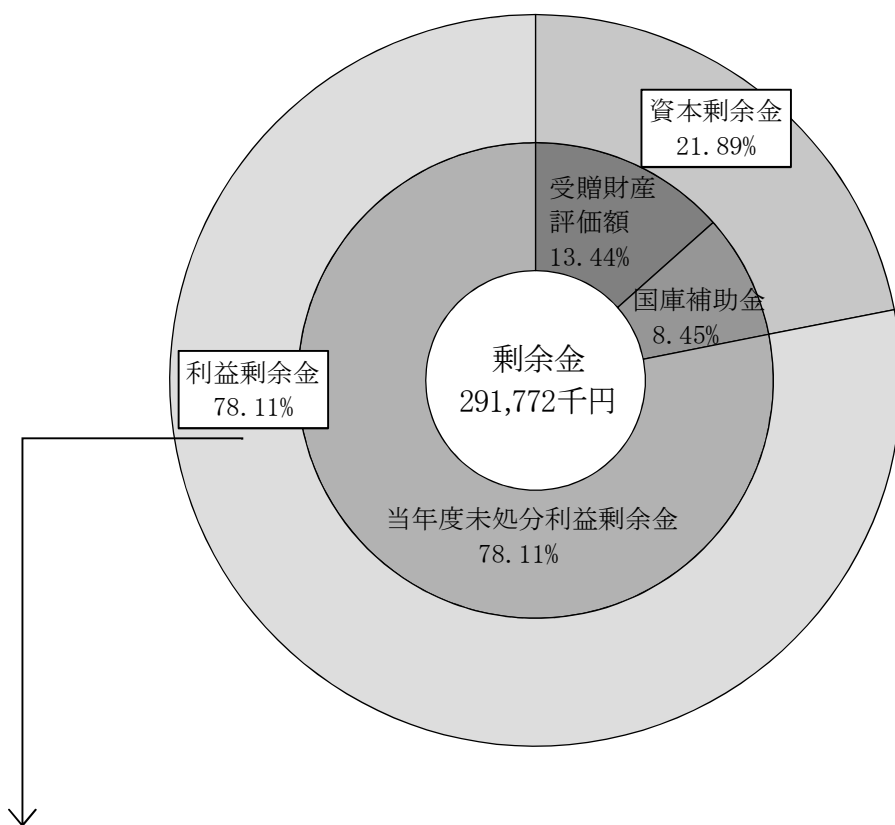


#### 4 剰余金計算書及び剰余金処分計算書

剰余金は2億9,177万2千円で、その内訳は、資本剰余金が6,388万円、利益剰余金が2億2,789万3千円となっている。

当年度未処分利益剰余金2億2,789万3千円は、地方公営企業法第32条第2項の規定により議会の議決を経て、資本金へ1億9,960万円を組み入れ、残額2,829万3千円は翌年度へ繰り越すこととしている。

剰余金構成比率及び処分計算



#### 【剰余金処分計算書】

|             |               |
|-------------|---------------|
| 当年度未処分利益剰余金 | 227,892,622 円 |
| 資本金への組入     | 199,600,000 円 |
| 繰越利益剰余金     | 28,292,622 円  |

## 5 貸借対照表

貸借対照表比較については、次表のとおりである。

(単位 円・%)

| 区分      |                 | 令和 5 年度        |       | 令和 6 年度        |       | 対前年度比較         |       |
|---------|-----------------|----------------|-------|----------------|-------|----------------|-------|
|         |                 | 金額             | 構成比率  | 金額             | 構成比率  | 増減額            | 増減率   |
| 資産の部    | 固定資産            | 63,791,101,345 | 97.3  | 61,761,559,950 | 97.2  | △2,029,541,395 | △3.2  |
|         | 流動資産            | 1,782,498,150  | 2.7   | 1,797,428,631  | 2.8   | 14,930,481     | 0.8   |
|         | 現金・預金           | 1,591,037,720  | 2.4   | 1,591,707,131  | 2.5   | 669,411        | 0.0   |
|         | 未収金             | 197,057,430    | 0.3   | 210,688,500    | 0.3   | 13,631,070     | 6.9   |
|         | 未収金<br>貸倒引当金    | △5,597,000     | △0.0  | △4,967,000     | △0.0  | 630,000        | △11.3 |
|         | 資産合計            | 65,573,599,495 | 100.0 | 63,558,988,581 | 100.0 | △2,014,610,914 | △3.1  |
| 負債・資本の部 | 固定負債            | 20,564,253,015 | 31.4  | 18,952,433,276 | 29.8  | △1,611,819,739 | △7.8  |
|         | 企業債             | 20,518,015,576 | 31.3  | 18,898,300,949 | 29.7  | △1,619,714,627 | △7.9  |
|         | 引当金             | 46,237,439     | 0.1   | 54,132,327     | 0.1   | 7,894,888      | 17.1  |
|         | 流動負債            | 2,610,419,814  | 4.0   | 2,443,667,860  | 3.8   | △166,751,954   | △6.4  |
|         | 企業債             | 2,114,446,177  | 3.2   | 2,040,831,255  | 3.2   | △73,614,922    | △3.5  |
|         | 未払金             | 483,964,772    | 0.7   | 388,853,284    | 0.6   | △95,111,488    | △19.7 |
|         | 未払費用            | —              | —     | 984,508        | 0.0   | 984,508        | 皆増    |
|         | 前受金             | 48,221         | 0.0   | 76,882         | 0.0   | 28,661         | 59.4  |
|         | 引当金             | 11,043,464     | 0.0   | 12,565,827     | 0.0   | 1,522,363      | 13.8  |
|         | その他<br>流動負債     | 917,180        | 0.0   | 356,104        | 0.0   | △561,076       | △61.2 |
|         | 繰延収益            | 12,216,052,073 | 18.6  | 11,952,061,102 | 18.8  | △263,990,971   | △2.2  |
|         | 長期前受金           | 15,704,709,565 | 23.9  | 15,940,115,611 | 25.1  | 235,406,046    | 1.5   |
|         | 長期前受金<br>収益化累計額 | △3,488,657,492 | △5.3  | △3,988,054,509 | △6.3  | △499,397,017   | 14.3  |
|         | 負債合計            | 35,390,724,902 | 54.0  | 33,348,162,238 | 52.5  | △2,042,562,664 | △5.8  |
|         | 資本金             | 29,816,053,929 | 45.5  | 29,919,053,929 | 47.1  | 103,000,000    | 0.3   |
|         | 自己資本金           | 29,816,053,929 | 45.5  | 29,919,053,929 | 47.1  | 103,000,000    | 0.3   |
|         | 剰余金             | 366,820,664    | 0.6   | 291,772,414    | 0.5   | △75,048,250    | △20.5 |
|         | 資本剰余金           | 63,879,792     | 0.1   | 63,879,792     | 0.1   | 0              | 0.0   |
|         | 利益剰余金           | 302,940,872    | 0.5   | 227,892,622    | 0.4   | △75,048,250    | △24.8 |
|         | 資本合計            | 30,182,874,593 | 46.0  | 30,210,826,343 | 47.5  | 27,951,750     | 0.1   |
|         | 負債・資本合計         | 65,573,599,495 | 100.0 | 63,558,988,581 | 100.0 | △2,014,610,914 | △3.1  |

資産合計は、635 億 5,898 万 9 千円で、固定資産が 617 億 6,156 万円（有形固定資産 825 億 9,162 万円、減価償却累計額 220 億 8,154 万 3 千円、無形固定資産 12 億 4,928 万 7 千円、投資その他の資産 219 万 5 千円）、流動資産が 17 億 9,742 万 9 千円となっている。

固定資産は、流域関連公共下水道管渠布設工事や浜田中継ポンプ場ほか監視装置交換工事により構築物や機械及び装置が増加したものの、減価償却及び除却により、前年度に比べ 20 億 2,954 万 1 千円（3.2%）減少している。

負債合計は、333 億 4,816 万 2 千円で、固定負債が 189 億 5,243 万 3 千円、流動負債が 24 億 4,366 万 8 千円、繰延収益が 119 億 5,206 万 1 千円となっている。

固定負債は、前年度に比べ 16 億 1,182 万円（7.8%）減少している。これは主に企業債が 16 億 1,971 万 5 千円（7.9%）減少したためである。

流動負債は、前年度に比べ 1 億 6,675 万 2 千円（6.4%）減少している。

繰延収益は、長期前受金 159 億 4,011 万 6 千円と長期前受金収益化累計額 39 億 8,805 万 5 千円の差引きで 119 億 5,206 万 1 千円が計上されている。

資本合計は、302 億 1,082 万 6 千円で、資本金が 299 億 1,905 万 4 千円、剰余金が 2 億 9,177 万 2 千円であり、前年度に比べ 2,795 万 2 千円（0.1%）増加している。

## 6 経営分析

職員の状況については、次表のとおりである。

(単位 人)

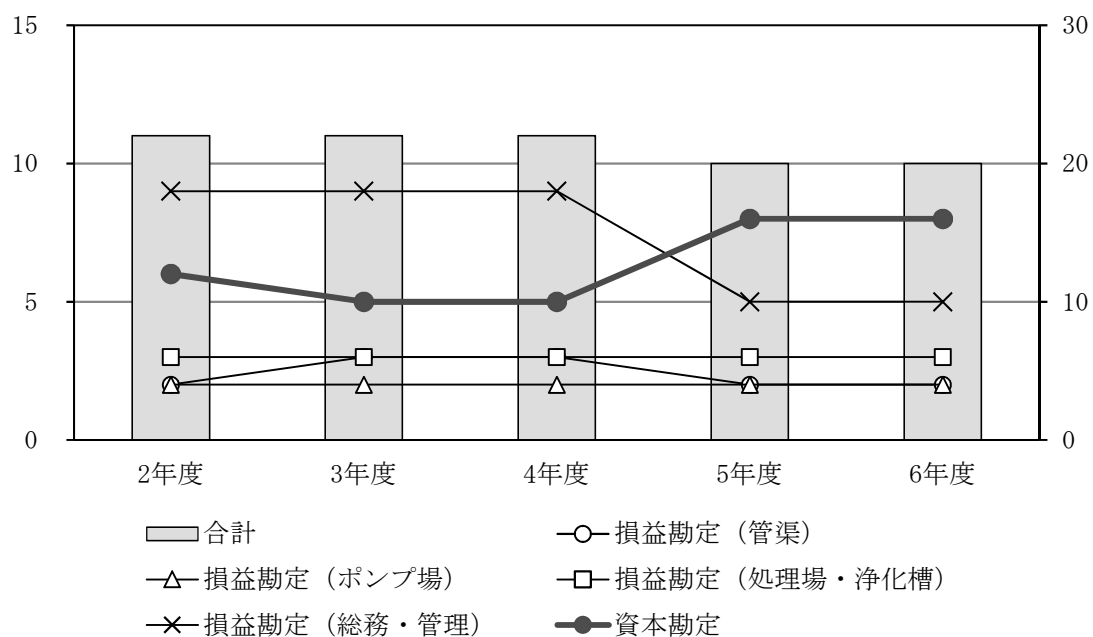
| 区分         | 2 年度 | 3 年度 | 4 年度 | 5 年度 | 6 年度 |
|------------|------|------|------|------|------|
| 損益勘定所属職員   | 16   | 17   | 17   | 12   | 12   |
| 管渠部門       | 2    | 3    | 3    | 2    | 2    |
| ポンプ場部門     | 2    | 2    | 2    | 2    | 2    |
| 処理場・浄化槽部門  | 3    | 3    | 3    | 3    | 3    |
| その他総務・管理部門 | 9    | 9    | 9    | 5    | 5    |
| 資本勘定所属職員   | 6    | 5    | 5    | 8    | 8    |
| 合計         | 22   | 22   | 22   | 20   | 20   |

(注) 全事業の人数である。

### 職員数の推移

勘定別 (人)

合計 (人)



職員 1 人当たりの生産性については、次表のとおりである。

| 指標名及び算式                                                             | 単位             | 酒田市（全体） |         |         | 各事業（上段：酒田市 下段：類型平均） |            |            |          |            |            |
|---------------------------------------------------------------------|----------------|---------|---------|---------|---------------------|------------|------------|----------|------------|------------|
|                                                                     |                | 4年度     | 5年度     | 6年度     | 公共                  | 特環         | 農集         | 簡排       | 特排         | 個排         |
| 職員 1 人当たり処理区域人口<br>$\frac{\text{現在処理区域内人口}}{\text{損益勘定職員数}}$        | 人              | 5,537   | 7,707   | 7,555   | 5,946<br>3,792      | 0<br>1,659 | 0<br>3,207 | 0<br>300 | 0<br>2,297 | 0<br>4,769 |
| 職員 1 人当たり有収水量<br>$\frac{\text{年間有収水量}}{\text{損益勘定職員数}}$             | m <sup>3</sup> | 516,531 | 722,921 | 704,991 | 572,908<br>—        | 0<br>—     | 0<br>—     | 0<br>—   | 0<br>—     | 0<br>—     |
| 職員 1 人当たり営業収益<br>$\frac{\text{営業収益}-\text{受託工事収益}}{\text{損益勘定職員数}}$ | 千円             | 148,165 | 208,222 | 203,811 | 177,905<br>—        | 0<br>—     | 0<br>—     | 0<br>—   | 0<br>—     | 0<br>—     |
| 職員 1 人当たり下水道等使用料<br>$\frac{\text{下水道等使用料}}{\text{損益勘定職員数}}$         | 千円             | 106,094 | 148,564 | 144,971 | 119,065<br>—        | 0<br>—     | 0<br>—     | 0<br>—   | 0<br>—     | 0<br>—     |

（注）各事業の下段の類型平均の説明は、57 ページ記載のとおり。

収支比率の推移については、次表のとおりである。

| 指標名及び算式                                                                            | 単位 | 酒田市（全体） |       |       | 各事業（上段：酒田市 下段：類型平均） |                |                |                |                |                |
|------------------------------------------------------------------------------------|----|---------|-------|-------|---------------------|----------------|----------------|----------------|----------------|----------------|
|                                                                                    |    | 4年度     | 5年度   | 6年度   | 公共                  | 特環             | 農集             | 簡排             | 特排             | 個排             |
| 総収支比率<br>$\frac{\text{総 収 益}}{\text{総 費 用}} \times 100$                            | %  | 102.3   | 104.6 | 100.6 | 100.6<br>108.3      | 100.0<br>117.6 | 100.0<br>114.6 | 135.2<br>114.7 | 108.5<br>106.1 | 100.0<br>115.3 |
| 経常収支比率<br>$\frac{\text{経 常 収 益}}{\text{経 常 費 用}} \times 100$                       | %  | 102.4   | 103.7 | 101.0 | 101.0<br>108.2      | 96.6<br>117.8  | 101.3<br>114.3 | 135.2<br>114.7 | 109.3<br>106.9 | 100.0<br>115.6 |
| 営業収支比率<br>$\frac{\text{営業収益}-\text{受託工事収益}}{\text{営業費用}-\text{受託工事費用}} \times 100$ | %  | 62.5    | 63.4  | 61.4  | 70.0<br>—           | 42.4<br>—      | 31.9<br>—      | 3.0<br>—       | 31.5<br>—      | 27.8<br>—      |

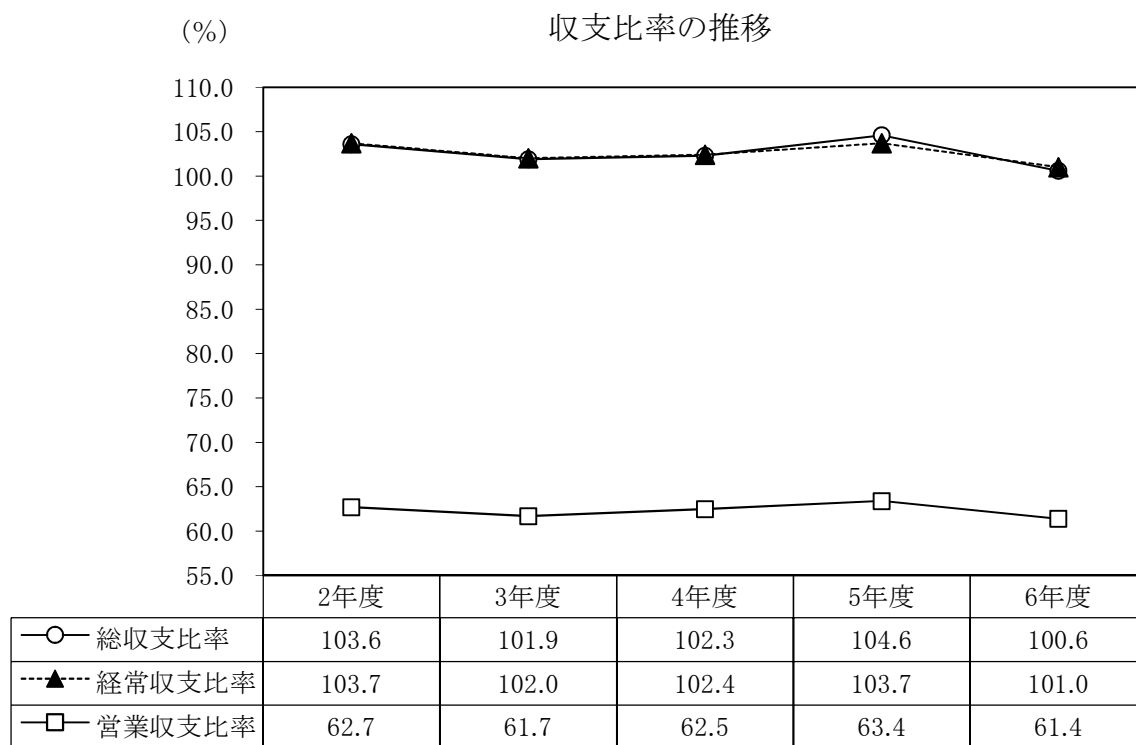
（注）各事業の下段の類型平均の説明は、57 ページ記載のとおり。

総収支比率は、収益と費用の相対的な関連を示すものであり、100%以上でなおかつ比率が高いほど良い。当年度は簡易排水事業及び特定地域生活排水処理事業が類型平均を上回っており、各事業で 100%以上となっている。

経常収支比率は、経常収益（営業収益＋営業外収益）と経常費用（営業費用＋営業外費用）

の関連を示すものであり、100%以上でなおかつ比率が高いほど良い。当年度は特定環境保全公共下水道事業を除き 100%以上となっており、簡易排水事業及び特定地域生活排水処理事業が類型平均を上回っている。

営業収支比率は、業務活動の能率を示すものであり、100%以上でなおかつ比率が高いほど良い。当年度は各事業で 100%を下回っており、全体で 61.4%である。



施設の効率性については、次表のとおりである。

| 指標名及び算式                                                             | 単位 | 酒田市(全体) |      |      | 各事業(上段:酒田市 下段:類型平均) |       |      |       |       |       |
|---------------------------------------------------------------------|----|---------|------|------|---------------------|-------|------|-------|-------|-------|
|                                                                     |    | 4年度     | 5年度  | 6年度  | 公共                  | 特環    | 農集   | 簡排    | 特排    | 個排    |
| 施設利用率<br>$\frac{\text{現在晴天時平均処理水量}}{\text{現在処理能力(晴天時)}} \times 100$ | %  |         |      |      | 55.8                | 29.1  | 54.0 | 10.0  | 52.5  | 42.2  |
|                                                                     |    | 54.6    | 53.7 | 54.0 | 61.5                | 73.4  | 50.1 | 31.5  | 48.8  | 43.4  |
| 有収率<br>$\frac{\text{年間有収水量}}{\text{年間汚水処理水量}} \times 100$           | %  |         |      |      | 59.4                | 103.8 | 90.4 | 100.0 | 100.0 | 100.0 |
|                                                                     |    | 65.5    | 64.6 | 63.8 | 79.8                | 91.4  | 88.6 | 96.1  | 100.0 | 100.0 |
| 水洗化率<br>$\frac{\text{現在水洗便所設置済人口}}{\text{現在処理区域内人口}} \times 100$    | %  |         |      |      | 92.1                | 88.2  | 90.6 | 50.0  | 96.0  | 100.0 |
|                                                                     |    | 90.8    | 91.4 | 91.8 | 92.4                | 76.8  | 87.9 | 96.3  | 95.5  | 68.5  |

(注) 各事業の下段の類型平均の説明は、57 ページ記載のとおり。

使用料については、次表のとおりである。

| 指標名及び算式                                       | 単位               | 酒田市（全体） |        |        | 各事業（上段：酒田市 下段：類型平均） |        |        |          |        |        |
|-----------------------------------------------|------------------|---------|--------|--------|---------------------|--------|--------|----------|--------|--------|
|                                               |                  | 4年度     | 5年度    | 6年度    | 公共                  | 特環     | 農集     | 簡排       | 特排     | 個排     |
| 使用料単価                                         |                  |         |        |        |                     |        |        |          |        |        |
| 下水道等使用料                                       | 円/m <sup>3</sup> | 205.40  | 205.51 | 205.64 | 207.83              | 207.38 | 198.89 | 262.67   | 159.45 | 154.95 |
| 年間有収水量                                        |                  |         |        |        | 154.88              | 167.19 | 156.10 | 200.99   | 193.97 | 144.57 |
| 汚水処理原価                                        |                  |         |        |        |                     |        |        |          |        |        |
| 汚水処理費<br>(公費負担分を除く)                           | 円/m <sup>3</sup> | 208.71  | 209.55 | 211.61 | 207.83              | 207.38 | 216.74 | 3,101.38 | 330.61 | 348.97 |
| 年間有収水量                                        |                  |         |        |        | 157.35              | 197.85 | 192.37 | 243.09   | 163.89 | 155.38 |
| 経費回収率                                         |                  |         |        |        |                     |        |        |          |        |        |
| 下水道等使用料<br>汚水処理費<br>(公費負担分を除く) ×100           | %                | 98.41   | 98.07  | 97.18  | 100.00              | 100.00 | 91.76  | 8.47     | 48.23  | 44.40  |
|                                               |                  |         |        |        | 98.4                | 84.5   | 81.1   | 82.7     | 118.4  | 93.0   |
| 一般家庭用使用料<br>(1か月20m <sup>3</sup> 当たり)<br>(税込) | 円                | 4,125   | 4,125  | 4,125  | 4,125               | 4,125  | 4,125  | 4,125    | 3,327  | 3,327  |
|                                               |                  |         |        |        | 2,887               | 2,085  | 2,119  | 1,518    | 1,576  | 1,878  |

(注) 各事業の下段の類型平均の説明は、57 ページ記載のとおり。

(注) 酒田市（全体）の一般家庭用使用料は、公共・特環・農集・簡排の使用料を記載している。

経費回収率は、使用料で回収すべき経費をどの程度使用料で賄えているかを示す指標であり、100%以上が望ましいとされている。当年度は公共下水道事業、特定環境保全公共下水道事業で100.0%であるが、そのほかの事業は100%を下回っている。

1 か月 20 m<sup>3</sup>当たりの一般家庭用使用料は各事業で類型平均より高い水準になっている。

(参考) 一般家庭用使用料（1 か月 20 m<sup>3</sup>あたり 税込）

| 酒田市          | 鶴岡市     | 米沢市          | 山形市          |
|--------------|---------|--------------|--------------|
| 4,125 円      | 3,883 円 | 3,377 円      | 3,355 円      |
| 類型平均 2,887 円 |         | 類型平均 2,716 円 | 類型平均 2,959 円 |

※類型平均：令和5年度

財政状態の分析指標の状況については、次表のとおりである。

| 指標名及び算式                                                                                                                   | 単位 | 酒田市（全体） |       |       | 各事業（上段：酒田市 下段：類型平均） |               |                |              |               |               |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----|---------|-------|-------|---------------------|---------------|----------------|--------------|---------------|---------------|
|                                                                                                                           |    | 4年度     | 5年度   | 6年度   | 公共                  | 特環            | 農集             | 簡排           | 特排            | 個排            |
| <b>固定資産回転率</b><br>$\frac{\text{営業収益} - \text{受託工事収益}}{(\text{期首固定資産} + \text{期末固定資産}) \div 2} \times 100$                 | 回  | 0.037   | 0.038 | 0.039 | 0.045<br>—          | 0.016<br>—    | 0.020<br>—     | 0.002<br>—   | 0.071<br>—    | 0.063<br>—    |
| <b>流動比率</b><br>$\frac{\text{流動資産}}{\text{流動負債}} \times 100$                                                               | %  | 58.1    | 68.3  | 73.6  | 65.5<br>—           | 111.7<br>—    | 82.2<br>—      | 388.7<br>—   | 285.2<br>—    | 149.6<br>—    |
| <b>自己資本構成比率</b><br>$\frac{\text{自己資本金} + \text{剰余金} + \text{繰延収益}}{\text{負債} + \text{資本合計}} \times 100$                   | %  | 62.9    | 64.7  | 66.3  | 65.5<br>62.4        | 69.0<br>64.5  | 69.7<br>69.9   | 86.2<br>95.1 | 51.2<br>51.1  | 4.0<br>38.9   |
| <b>固定資産対長期資本比率</b><br>$\frac{\text{固定資産}}{\text{固定負債} + \text{資本合計} + \text{繰延収益}} \times 100$                            | %  | 101.7   | 101.3 | 101.1 | 101.4<br>101.4      | 99.6<br>101.6 | 100.7<br>103.0 | 87.6<br>94.2 | 89.1<br>104.6 | 94.9<br>100.6 |
| <b>企業債償還元金対減価償却費比率</b><br>$\frac{\text{建設改良のための企業債償還元金}}{\text{当年度減価償却費} - \text{長期前受金戻入}} \times 100$                    | %  | 108.6   | 104.6 | 101.3 | 99.8<br>—           | 126.3<br>—    | 103.3<br>—     | 73.1<br>—    | 65.2<br>—     | 148.2<br>—    |
| <b>有形固定資産減価償却率</b><br>$\frac{\text{有形固定資産減価償却累計額}}{\text{有形固定資産のうち償却対象資産の帳簿原価}} \times 100$                               | %  | 21.1    | 24.4  | 27.4  | 27.6<br>—           | 23.2<br>—     | 27.3<br>—      | 32.7<br>—    | 40.1<br>—     | 41.9<br>—     |
| <b>当年度減価償却率</b><br>$\frac{\text{当年度減価償却費}}{\text{有形固定資産} + \text{無形固定資産} - \text{土地・建設仮勘定} + \text{当年度減価償却費}} \times 100$ | %  | 4.0     | 4.1   | 4.2   | 4.3<br>—            | 3.0<br>—      | 4.1<br>—       | 5.2<br>—     | 7.8<br>—      | 8.3<br>—      |

（注）各事業の下段の類型平均の説明は、57 ページ記載のとおり。

固定資産回転率は、営業収益と設備資産に投下された資本との関係で、固定資産の利用度を表すものであり、比率が大きいほど良い。当年度は全体で 0.039 回である。

流動比率は、1 年以内に現金化できる資産と支払わなければならない負債との対比で、支払能力を示すものであり、200%以上が望ましい。当年度は全体で 73.6%である。

自己資本構成比率は、総資本のうち自己資本の占める割合を表すものであり、比率が大きいほど良く 50%以上が望ましい。当年度は全体で 66.3%である。

固定資産対長期資本比率は、固定資産が資本金と固定負債の範囲内か否かを示すものであり、100%以下が望ましい。当年度は全体で 101.1%である。

企業債償還元金対減価償却費比率は、建設のための企業債償還元金と当年度減価償却費の対

比で、減価償却費は原則として企業償還元金の補填財源であり、一般的には低いほうが良い。  
当年度は全体で 101.3%である。

有形固定資産減価償却率は、資産の減価償却の割合を示す比率である。この比率により減価償却の進み具合や資産の経過年数を知ることができる。当年度は全体で 27.4%である。

当年度減価償却率は、償却対象固定資産に対する平均償却率である。当年度は全体で 4.2%である。

【(注) 各事業の下段の類型平均について】

- ・令和5年度「下水道事業経営指標（総務省）」の以下の類型区分の類型平均である。
- ・公共（公共下水道事業）：処理区域内人口別区分 5 万人以上 10 万人未満、有収水量密度別区分 2.5 千 $\text{m}^3$ /ha 以上 5.0 千 $\text{m}^3$ /ha 未満、供用開始後年数別区分 25 年以上
- ・特環（特定環境保全公共下水道事業）：処理区域内人口別区分 5 千人未満、有収水量密度別区分 2.5 千 $\text{m}^3$ /ha 未満、供用開始後年数別区分 15 年以上 25 年未満
- ・農集（農業集落排水事業）：有収水量密度別区分 2.5 千 $\text{m}^3$ /ha 未満、供用開始後年数別区分 25 年以上
- ・簡排（簡易排水事業）：有収水量密度別区分 2.5 千 $\text{m}^3$ /ha 未満、供用開始後年数別区分 25 年以上
- ・特排（特定地域生活排水処理事業）：有収水量密度別区分 2.5 千 $\text{m}^3$ /ha 未満、供用開始後年数別区分 25 年以上
- ・個排（個別排水処理事業）：有収水量密度別区分 2.5 千 $\text{m}^3$ /ha 未満、供用開始後年数別区分 15 年以上 25 年未満

主な経営指標の推移は、次表のとおりである。

| 区分        |                       | 単位             | 令和2年度      | 令和3年度      | 令和4年度      | 令和5年度      | 令和6年度      |
|-----------|-----------------------|----------------|------------|------------|------------|------------|------------|
| 経営成績      | 下水道事業収益               | 千円             | 4,776,210  | 4,713,360  | 4,596,776  | 4,557,992  | 4,467,844  |
|           | 下水道事業費用               | 千円             | 4,608,353  | 4,624,017  | 4,493,145  | 4,359,026  | 4,439,893  |
|           | 営業収益                  | 千円             | 2,533,182  | 2,531,860  | 2,518,813  | 2,499,602  | 2,445,732  |
|           | 営業費用                  | 千円             | 4,040,022  | 4,106,281  | 4,028,297  | 3,941,453  | 3,980,786  |
|           | 営業利益又は<br>営業損失(△)     | 千円             | △1,506,840 | △1,574,421 | △1,509,484 | △1,441,851 | △1,535,054 |
|           | 経常利益又は<br>経常損失(△)     | 千円             | 168,428    | 91,983     | 105,582    | 161,279    | 45,449     |
|           | 当年度純利益又は<br>当年度純損失(△) | 千円             | 167,857    | 89,344     | 103,631    | 198,966    | 27,952     |
| 財政状態      | 資産合計                  | 千円             | 72,117,727 | 69,983,418 | 67,611,864 | 65,573,599 | 63,558,989 |
|           | 自己資本金                 | 千円             | 30,167,333 | 29,727,054 | 29,727,054 | 29,816,054 | 29,919,054 |
|           | 剰余金                   | 千円             | △376,399   | 153,223    | 256,855    | 366,821    | 291,772    |
|           | 自己資本金の割合              | %              | 41.8       | 42.5       | 44.0       | 45.5       | 47.1       |
|           | 過年度未収下水道<br>等使用料(税込)  | 千円             | 5,622      | 5,524      | 5,537      | 6,333      | 8,505      |
|           | 不納欠損額<br>(税込)         | 千円             | 218        | 349        | 546        | 660        | 529        |
|           | 企業債残高                 | 千円             | 28,913,422 | 26,834,071 | 24,625,535 | 22,632,462 | 20,939,132 |
|           | 企業債利息                 | 千円             | 560,327    | 507,815    | 455,502    | 405,187    | 361,815    |
| キャッシュ・フロー | 業務活動                  | 千円             | 2,174,310  | 2,352,972  | 2,377,879  | 2,395,997  | 2,020,718  |
|           | 投資活動                  | 千円             | △23,028    | △54,917    | △10,689    | △142,116   | △326,719   |
|           | 財務活動                  | 千円             | △2,136,019 | △2,079,351 | △2,208,536 | △1,993,073 | △1,693,330 |
|           | 資金期末残高                | 千円             | 952,873    | 1,171,576  | 1,330,230  | 1,591,038  | 1,591,707  |
| 業務量       | 水洗化人口                 | 人              | 86,885     | 86,229     | 85,510     | 84,553     | 83,217     |
|           | 年間総処理水量               | m <sup>3</sup> | 14,301,067 | 14,090,067 | 13,401,626 | 13,423,001 | 13,265,767 |
|           | 年間総有収水量               | m <sup>3</sup> | 8,959,631  | 8,811,611  | 8,781,025  | 8,675,048  | 8,459,893  |
|           | 有収率                   | %              | 62.7       | 62.5       | 65.5       | 64.6       | 63.8       |
| その他       | 他会計補助金                | 千円             | 1,814,848  | 1,733,634  | 1,622,232  | 1,568,273  | 1,517,580  |
|           | 建設改良費<br>(税込)         | 千円             | 372,675    | 427,968    | 186,396    | 384,509    | 619,703    |
|           | 職員数                   | 人              | 22         | 22         | 22         | 20         | 20         |

(注)自己資本金の割合は、資産合計に占める自己資本金の割合で算出した。

## 7 審査意見

当年度の決算は、事業収益が 44 億 6,784 万 4 千円で前年度比 9,014 万 7 千円（2.0%）減少し、事業費用が 44 億 3,989 万 3 千円で前年度比 8,086 万 7 千円（1.9%）増加した結果、純利益は 2,795 万 2 千円となり、前年度を 1 億 7,101 万 4 千円（86.0%）下回った。これは、令和 6 年 7 月の大雨災害により被災した松山浄化センターの災害共済金のほか、災害復旧国庫補助金の皆増により特別利益が 2,206 万 7 千円（52.3%）増加したものの、下水道等使用料の減により営業収益が 5,387 万円（2.2%）減少し、他会計補助金の減により営業外収益が 5,834 万 4 千円（2.9%）減少したことに加え、災害による損失の皆増により特別損失が 7,725 万 1 千円（1,708.6%）増加したことによるものである。

資本的収入を含めた一般会計からの繰入金総額は 22 億 2,300 万 9 千円で、前年度に比べ 6,076 万 4 千円（2.7%）減少しているが、本市の財政状況が厳しさを増す中、更なる経営の効率化が求められている。

業務状況では、事業全体の水洗化人口が 83,217 人で、前年度に比べ 1,336 人（1.6%）減少している。年間総処理水量は 1,326 万 6 千 $\text{m}^3$ で、前年度より 15 万 7 千 $\text{m}^3$ （1.2%）減少し、年間有収水量は 846 万 $\text{m}^3$ で、前年度より 21 万 5 千 $\text{m}^3$ （2.5%）減少している。この結果、有収率は 63.77%となり、前年度に比べ 0.86 ポイント低下している。

採算性を表す 1  $\text{m}^3$ 当たりの事業全体の使用料単価は 205 円 64 銭、汚水処理原価は 211 円 61 銭となり、経費回収率（使用料単価÷汚水処理原価）は 97.18%で、前年度より 0.89 ポイント低下している。

当年度は、令和 6 年 7 月の大雨災害により一部の下水道施設が冠水し、機能停止に至る被害が発生した。近年の気象災害の激甚化を鑑みると、下水道施設の老朽化対策、防災・減災機能の強化は、喫緊かつ重要な課題である。また、こうした災害は将来の施設・設備の更新計画や資産管理にも大きく影響を及ぼすことから、固定資産台帳については、引き続き適切に整備されたい。

今後は、人口減少や節水機器の普及等による使用料収入の減少に加え、施設の老朽化に伴う更新費用の増加も見込まれ、厳しい経営環境が続くことが想定される。令和 6 年 6 月に改訂された「酒田市下水道事業経営戦略」に示されている「適正な施設管理」、「安定した事業運営」、「技術力の確保と人材育成」の三つの基本方針及び各種施策に基づき、PDCA サイクルを活用しながら着実に実行されたい。併せて、下水道未接続世帯への接続に向けた啓発活動の促進、広域化・共同化の推進、さらには管理・更新一体マネジメント方式の導入に向けた官民連携の検討など、多角的な視点から経営基盤の強化に継続して取り組まれない。